

Jミルク国際委員会 ニュースレター

Newsletter of J-milk International Committee No.2 2022

- 巻頭言：国際委員会による情報提供等に際しての視点について
(大崎副委員長)
- Jミルク国際委員会の活動報告
～各専門分科会より活動内容のトピックを紹介～
- 国際組織（IDF、GDP、IFCN、DSF）の活動報告
- 国際会議の報告
～IDFグローバルデーリーカンファレンス2021コペンハーゲン～



GDP本部のあるシカゴの遠景～ミシガン湖畔より望む～



一般社団法人 **Jミルク**
Japan Dairy Association (J-milk)

巻頭言：国際委員会による情報提供等に際しての視点について

Jミルク国際委員会副委員長・一般社団法人中央酪農会議 大崎 修嗣 …… 1

1. 国際委員会活動報告と主な国際情報提供

I 国際委員会実施報告	3
1) 国際委員会	
2) 国際広報分科会	
3) 国際組織活動連絡会議	
II 専門分科会活動報告	9
1) コーデックス関連活動	
2) 持続可能性関連活動	
3) IDF/ISO 分析法関連活動（質問状含む）	
III 国際情報提供	11

2. 国際組織の活動報告

I IDF 関連	17
1) IDF チームアップデート（最新活動状況）から	
2) IDF 質問状の概要と結果	
3) 国際会議の報告	
報告：IDF グローバルデーリーカンファレンス	
II GDP 関連	54
1) GDP ブリテン、ニュースメール等から	
2) 国際会議の報告	
III IFCN 関連	63
1) 国際会議の報告	
IV DSF 関連	64
1) 国際会議の報告	

3. 国際会議等の日程及び出版物の紹介

I 国際会議等の日程一覧表	67
II 国際組織関連の出版物	68

巻頭言：国際委員会による情報提供等に際しての視点について

国際委員会副委員長・一般社団法人中央酪農会議
大崎 修嗣

昨年6月に開催された第1回国際委員会で副委員長に就任した中央酪農会議の大崎と申します。まず初めに、安全・安心で良質な牛乳乳製品を消費者にお届けするとの共通の想いで日々尽力されている、酪農乳業関係者の皆様に感謝を申し上げます。

さて、事務局より国際委員会ニュースレターNo.2の発行に当たり、「巻頭言」の作成依頼があったことから、私自身の国際経験を振り返りつつ、私なりの国際委員会による情報提供等に際しての視点について述べさせていただきます。

なお、国際経験と言いつつも、2005年にカナダ・バンクーバーで開催されたワールドデーリーサミットに参加した後はJIDF活動に直接的に携わることもなく、現在に至っております。十年以上の時間が経過しておりますが、全世界から集まった大人数での開会式等の盛大さと、4日間という限られたサミット期間中に日本派遣団の皆様から最年少で経験の浅い私にもお声を掛けていただくとともに様々な意見交換が出来たことが思い出されます。一方で、カナダに着いた途端に激しい時差ボケに悩まされ、やっと体が慣れそうになった時点で帰国となり、日本に戻った後もつらかった苦い体験から、「アメリカ大陸方面にはもう行くまい！」と心に強く誓ったことも今では良い思い出です。

話が脱線しましたが、帰国後の出席報告を任されていた関係で、当時作成した報告書を見返してみました。私が担当した「酪農政策・経済特別講演会」は、『今日の乳業の戦略及び挑戦』をテーマに報告と議論が交わされました。2008年に交渉が決裂して以降は停滞していますが、当時はWTO農業交渉のモダリティに係るたたき台づくりが議論されていた時期であったことから、貿易ルールの在り方について、比較優位説を盾に『全ての市場介入措置は悪だ』とする先進国（輸出国）に対し、『消費者価格の安定が大切』や『市場価格に反映されない多面的機能を重視すべき』とする自由貿易に対する警告喚起を行う先進国（輸入国）、先進国の市場に輸出することを目指して先進国の国内補助の削減を求める途上国など、三者三様の報告に多くの時間が割かれていました。また、翌年のサミットが初めて中国で開催されることもあり、中国国内の需要の伸びが世界の牛乳乳製品市場に与える影響がクローズアップされ、『将来、中国は飼料を輸入するのか、それとも牛乳（商品）自体を輸入するのか選択をしなければならない時期が来るであろう』との報告もありました。この他に「乳たんぱく VS 大豆たんぱく」、「オーガニック牛乳の動向」、「途上国における貧困の減少に向けて」などのキーワードが記されておりました。久しぶりに読み返しても、IDF等の国際組織は世界の酪農乳業界の課題等を共有して議論する貴重な場であることを再認識



するとともに、現在でも参考となる中長期的な視点での課題やヒントが転がっていたなと感じています。

私が IDF サミットに参加して以降、この十数年で国際情勢は大きく変化しました。この度、近年の地球温暖化や人口問題の深刻化に伴い、酪農乳業の持続可能性を強化していくことが世界の酪農乳業セクター共通の課題となっていることから、Jミルクにおいて国際委員会が設置され、国際組織・機関との連携強化が図られました。なお、国際委員会の他に 8 つの専門分科会と小分科会が設置され、団体、企業、研究機関、国際機関等から総勢 100 名を超える方々が委員として参加されています。

こうした体制構築により、国際情勢の一元的な収集、分析と酪農乳業関係者の皆様への迅速な情報提供が推進されることとなります。なお、国際情勢は刻々と変化するとともに、今後はさらにその変化スピードも加速していくと考えます。そのため、直近で対応すべき緊急課題だけではなく、中長期的に日本国内に影響が生じる懸念のある事項についても積極的に拾い上げて紹介することも重要と考えます。上述の通り、そのヒントは世界各地に転がっており、専門家集団の皆様の嗅覚に期待しています。また、ひとくちに「酪農乳業の持続可能性の強化」と言っても、生産から消費という様々な過程や段階があるなかで課題が多岐に渡るとともに、グローバル化による国家や個人の価値観の多様化を背景に感情的な情報も氾濫しているため、倫理的な視点を持ちつつも、科学に基づいた冷静な分析と議論、関係者への丁寧な情報提供が必要と考えています。

わが国の酪農乳業の将来にわたる持続可能な発展に向け、上述した視点を胸に刻みつつ、副委員長として本委員会の運営に微力ながら取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。

1. 国際委員会活動報告と主な国際情報提供

I 国際委員会実施報告

1) 国際委員会

① 2021年度第2回国際委員会

2021年度第2回国際委員会は、2021年11月2日（火）、Jミルク会議室を開催場所とするウェブ会議で開催されました。

議題及びその審議結果は次のとおりです。

(1) 報告事項

- ① 専門分科会・小分科会の活動状況について
- ② 国際広報分科会の開催状況および国際委員会ニュースレター発刊について
- ③ 国際組織活動連絡会議の開催状況について
- ④ 国連食料システムサミットについて
- ⑤ 国連食料システムサミット終了後の対応について
- ⑥ IDF グローバルデーリーカンファレンス2021の概要報告
- ⑦ その他

上記報告事項①～⑦とも資料に基づき、説明が行われ、異議なく了解されました。

② 2021年度第3回国際委員会

2021年度第3回国際委員会は、2022年3月3日（木）に、Jミルク会議室を開催場所とするウェブ会議で開催が予定されています。

2) 国際広報分科会

① 2021年度第1回国際広報分科会

2021年度第1回国際広報分科会は、2021年10月22日（金）、Jミルク会議室を開催場所とするウェブ会議で開催されました。

議題及びその審議結果は次のとおりです。

(1) 協議事項

- ① 国際広報分科会の活動方針と2021年度計画について
- ② 専門分科会・小分科会の活動内容と広報戦略について
- ③ 国際情報収集提供事業について

上記協議事項①～③とも資料に基づき、説明が行われ、出席委員の多数の賛成により事務局提案の通り承認されました。

(2) 報告事項

- ① 国連食料システムサミットについて
- ② その他

上記報告事項①～②とも資料に基づき、説明が行われ、異議なく了解されました。

上記(1)～(2)の、各分科会での活動内容トピックについて、以下に紹介します。

1. 経済市場専門分科会

① IDF 酪農政策・経済常設委員会について（2021年5月6日21:00～23:00、オンライン開催、出席者：雪印メグミルク㈱ 野村委員）

毎年発行している IDF 世界の酪農状況報告の2021年版は、5月に各国内委員会に質問状を送付し、7月に回答を回収、取りまとめた上で、10月に公表予定。

過去6か月の各国の酪農情勢をとりまとめたカントリーレポートが報告された。

【乳価】パンデミックの終息が近づくとつれ、消費者の需要が高まった結果、多くの国で乳価が上昇している。

【小売市場】パンデミック期間中、外食産業消費の低迷がみられる一方、小売需要は好調であり、需要を支えた。

② IDF マーケティング常設委員会について（2021年6月7日20:00～21:00、オンライン開催、出席者：榊明治 ウォルトン委員）

他の常設委員会と共同で School Milk Survey を実施。

学校牛乳プログラムの実施や組織化に関する知識や専門性を集約するために IDF School Milk Knowledge hub を IDF ホームページに立ち上げた。

2. 酪農生産専門分科会

① IDF 農場管理常設委員会について（出席者：酪農学園大学 森田委員）

各国の状況として、「温室効果ガスの削減」について、ドイツでは新しい制度の農業への影響が話題となり、オランダで30%削減するという取組が報告されたほか、ニュージーランドで労働力の確保も課題になっていることが報告された。また、メタン抑制物質については、広く利用される前にアクションチーム（AT）での検討が必要との議論があった。牧草の高品質化で配合飼料を削減するノルウェーの取組では、牧草を増やすとメタンは増えるのではないかとの質問があったが、牧草をたくさん与えるのではなく、良質の粗飼料で生産性を高めるとのことであった。

② IDF 家畜の健康・福祉常設委員会について（出席者：北海道大学 近藤分科会長）

特に乳房炎の関係が中心の報告で、出産から離乳までの子牛の管理や、後段の臨床および潜在性乳房炎症例の定義等々の報告が行われた。

③ IDF ヨーネ病国際フォーラム2021について（出席者：酪農学園大学 菊委員）

オーストラリアにおけるヨーネ病管理について、市場保証プログラムの自主的な導入によりヨーネ病ステータスを識別し、陰性証明が得られる。他の病気も含めて疾病履歴も電子システムで管理されると報告された。

また、オランダではヨーネ病は人獣共通感染症の可能性について、消費者から懸念される可能性があるため注目されていると報告された。

④ IDF 環境常設委員会会議出席報告（出席者：日本乳業協会 遠藤委員）

国連食料システムサミットで定められた5つのアクショントラックにおいて、IDFが焦点を当てる部分や、酪農乳業が革新的な解決策の一端を担っていることを紹介する取組が報告された。

3. 栄養健康専門分科会

① IDF 栄養シンポジウムについて（2021年5月12日、オンライン開催）

IDF 栄養シンポジウムに、日本より栄養健康専門分科会の委員が出席した。このシンポジウムには約500人がライブ参加した。

分科会では、セッション2：乳製品と非感染性疾患、セッション3：乳製品と持続可能な食事の紹介、セッション4：乳製品・マイクロバイオーム・免疫システムに関して報告された。

セッション2について、詳しく紹介する。同セッションでは、乳製品の摂取が、骨の栄養に与える影響、筋肉特に特にサルコペニアとの関連などの報告があった。乳製品の摂取と「がん」の関連として、乳製品摂取が大腸がんのリスクを下げることなどが報告された。分科会では、そのメカニズムとしてカルシウムなどの関与についての質疑応答があった。

② 東京栄養サミット2021の開催について

2021年12月7-8日に開催された東京栄養サミットについて、農林水産省の松下課長補佐より開催趣旨等の説明があった。栄養サミットとは、栄養改善に向けた国際的取組を促進する会合である。オリンピック・パラリンピックの開催国が開催するのが慣行で、4年に一度開催されている。英国（ロンドン）・ブラジル（リオ）に続き東京で開催された。母乳代替品の製造企業（BMS 企業）の参加に必要とされる「コミットメント」の内容についての質疑応答があった。

4. 乳業技術専門分科会

① チーズの科学と技術シンポジウムについて（2021年6月7～11日、オンライン開催）

チーズの歴史やその特徴に関する講演、特徴的なチーズの製造方法に関する講演、チーズの物性解析に関する講演、チーズの生理機能特性に関する講演、マイクロバイオームの活用によるチーズ品質解明、3Dプリント技術をプロセスチーズへ応用する研究、メタゲノム解析によるチーズの微生物叢の解明など最新技術をチーズ研究に応用した内容の講演を紹介。

② IDF 乳業科学・技術常設委員会について（2021年6月8日、オンライン開催、トピックを一部紹介）

・超加工食品（UPF）

NOVA 分類には処理加工の目的を考慮しているが、栄養素の消化率、生体利用性、食品ロス削減などは考慮されておらず、処理強度というより添加物（砂糖、香料、ホエイ等）による影響が強く反映された分類といえる。

⇒特別作業部会（TF:タスクフォース）は、処理強度や他の側面を会合や出版物などコミュニケーションに引き続き取り入れていく。

⇒技術文書を作成中で、IDF からの意見書及び UPF に関する資料案について各常設委員会からの意見募集がなされている。（日本からも事務局から IDF に回答）

・デジタルデリー

①接続性

②サプライチェーンにおける意思決定のための農場でのデジタル統合

③ルーチン分析から得られた追加データの使用

④さまざまなデータストリーム/タイプのデータ統合と変換

⑤センサーとその統合

⑥サプライチェーン内の微生物叢の特定

⑦足跡と追跡：QR コード、分散型元帳技術（DLT）

⑧インダストリー4.0（IOT を含む）及び製品品質と新製品開発への活用

⑨電子商取引（署名、契約、セキュリティ）及び電子文書

⑩自動化・協働ロボット

⑪リモートアクセス、製造、トレーニングのための拡張現実と複合現実

⑫規制要件、サイバーセキュリティ、データセキュリティ、プライバシー、及びトレーサビリティ

⑬重要な問題についての学習を可能にするデリーセクター向け教育ツール

⇒レポートが準備されており、科学・計画調整委員会（SPCC）承認後、乳業科学・技術常設委員会（SCDST）メンバーに送信される。

・リコンビナント・ミルク・プロテイン（Recombinant milk proteins）

遺伝子組み換え微生物を使用して、バイオリクターで乳タンパク質やその他の乳成分の生産に取り組んでいる新興企業は少なくとも6つあり、恐らく更にあると思われる。ゲルフ大学では、バイオテクノロジーで製造された模造乳脂質に取り組んでいる。この技術により、GHG 排出量の削減、土地と水の使用量削減、動物福祉の課題解決を目指す。最近、大きな技術進歩があったようだが、コスト削減が重要な問題。ミセル以外のカゼインから作られたチーズ

は、この技術の候補になる可能性があり、バイオリアクターで生成されたカゼインがミセルを形成する可能性さえある。ホエイプロテイン市場がこの技術に興味を持っている可能性もある。しかしバイオリアクターによる生産は、天然牛乳の栄養豊富さと独特の構造に到達することはまだできないと考えられている。

⇒IDFはこのトピックに積極的に取り組んでいない。D. Everett氏(IE)は、SPCCで議論し、情報をSCDSTに報告する。現在、SCDSTによるこれ以上のアクションはない。

・若手科学者をいかに参加させるかが課題
SPCC、IDFはこのイニシアチブをIDF全体の賞として承認。年次の賞とする。
受賞者の褒賞(案)

賞金 1位:\$1,000 2位:\$600 3位:\$400

WDSなどIDF会議の場での発表に招待

SCDSTのメンバー入り(国内委員会(NC)と要調整)

⇒賞の継続的な資金調達のための基金を設立する。

5. 分析技術・衛生専門分科会

① 塩素酸の概要について

食品の製造・加工工程において、殺菌工程の副生成物として塩素酸が発生することがある。大量の塩素酸をヒトが摂取すると、甲状腺へのヨウ素摂取が抑えられる可能性があるため、乳児や妊娠中の女性への影響が懸念されている。

これまで、EUでは塩素酸の基準が一律基準値(0.01ppm)適用されていたが、2020年に法改正が実施され乳中の基準値が0.1ppmに定められている。

残留物質・化学汚染物質常設委員会(SCRCC)では、新しくリスクとなりうる化学物質の候補の一つとして、塩素酸をテーマに協議をしており、現在、ファクトシートを作成している。また、食品添加物・汚染物質分析法常設委員会(SCAMAC)でも塩素酸の注目度が高く、検査法開発に向けたアクションチームの開始を検討している。

6. 微生物・衛生専門小分科会

① IDF/ISO ビフィズス菌測定法改正案における共同試験の実施概要について

2015年から議論してきた改正案について、バリデーション検証のための研究所間比較試験がスタートする。試料にはヨーグルト(10月→11月に延期)、調製粉乳(11月)、スターター/プロバイオティクスカルチャー(12月)の3種を予定しており、ヨーグルトについては日本とヨーロッパでわけて実施することになった。日本の試験ではATリーダーを務める森永乳業が試料調製、均一性・安定性評価を行い、分科会メンバーの6団体から12名が測定に参加する。

参加希望者を募りヨーグルトのプレテストを実施した結果、輸送中の試料温度に問題はなく、ビフィズス菌数は測定者間でほとんど差が認められなかった。11月に実施される本試験においても日本として必要な8つの有効データの取得が期待できた。

② 食品に使用履歴のある微生物リストの更新

日本から要望した *Bifidobacterium longum subsp. longum* が食品に使用履歴のある微生物リスト第4版(案)に掲載されていることを確認した。

明治が提案した編集上の修正点について第4版(案)では修正されていなかったが、最終版では考慮するとATリーダーから回答を得た。

7. 国際規格専門分科会

① 「植物バター」について

酪農用語の保護の観点から、規格表示について、ミルク、バター、チーズといった用語を、酪農製品ではない植物性の物について使うことが酪農乳業界では問題視されている。日本では、牛乳とミルクは使い分けられており、豆乳と牛乳に関しても特に昔から消費者は区別し

ているのでそれほど問題ではないが、海外ではミルクという言葉に非常にセンシティブになっている。

最近では植物バターという言葉がコーデックスの油脂部会が、マーガリンの用語の置き換えに使おうと動いており、IDF では問題にしている。日本事務局が IDF 本部と直接やり取りしており、酪農用語の手引きについては、Jミルクがプレスリリースしている。

<https://www.j-milk.jp/jidf/wp-content/uploads/2020/12/j-PR18Nov2020.pdf>

② 食品添加物の「カクテル効果」について

食品添加物の安全性について、個別の食品添加物については保証されているのが前提だが、食品の中に複数の添加物が混じったものを食べた場合、あるいは食品添加物の入った食品を複数食べた場合、いろいろな食品添加物を一度に取ることになる。そういった際の安全性を懸念する声がある。IDF の新規活動項目 (NWI) としてご承知と思うが、2021年7月開催の SCFA 出席報告書から、以下を抜粋する。

4.7 複数の食添を含む乳製品の安全性

- ・いわゆる「サウザンプトンレポート」(色素と安息香酸塩が子供の多動性と関連?) が引き金。
- ・今年初めに新規作業として承認された。毒性データの入手がポイントとなる。
- ・委員が国際食品添加物協議会 (IFAC) や米国食品色素協会 (NATCOL) 等に接触したが、文献情報等は得られなかった。そもそも報告文献自体がほとんどなさそうである。

8. コーデックス栄養・特殊用途食品専門小分科会

① コーデックス規格について

- ・各種食品カテゴリについて、公正な貿易を促進する目的で国際規格を設定。
- ・コーデックス規格の内容を勘案して、各国当局が自国の法規に落とし込む(法規を定めるか否かも各国当局が判断)。
- ・適用範囲、定義、必須組成等の項目から構成。
- ・実際のコーデックス栄養・特殊用途食品部会には、政府関係者が正式メンバーとして参加し、当分科会メンバーは、NGO 団体を通じたオブザーバーとして参加。

② 現行のフォローアップフォーミュラ規格について

- ・現行規格では、6~36 ヶ月齢を対象とした補完食*の液体部分と定義。
*乳児期から幼児期にかけての母乳→食事への移行期(離乳期)に、母乳とは別に摂取する食事(離乳食のイメージ)
- ・現行規格は、制定から30年近くが経過しているため、改訂の議論中。
- ・我が国ではフォローアップフォーミュラ規格に相当する法規は制定されていない。現時点では、乳業各社が海外で事業展開(国内製造品の輸出含む)していく上で重要。

③ フォローアップフォーミュラ規格の改訂議論について

- ・乳児用栄養の最新情報(栄養の考え方、各栄養素の摂取実態)を考慮。
- ・6~36 ヶ月の栄養は、1歳を区切りとして6~12 か月(後期乳児)と12~36 か月(年少幼児)で分けて考えることが妥当と、CCNFSDU(コーデックス栄養・特殊用途食品部会)での見解。
- ・後期乳児用は、定義を「母乳代替品」として、必須組成ではインファントフォーミュラ規格(乳児用調製乳)をベースに、後期乳児で要求が高まる栄養素の下限を引き上げる等の対応。
- ・年少幼児用は、摂取実態に基づいて不足が世界的(または多くの地域)にみられる成分、および、牛乳の代わりにの飲用を想定して牛乳に豊富に含まれる成分を必須項目に設定(ただの幼児用の食品ではなく、栄養設計をした食品)。
- ・一方で、年少幼児用の製品は、栄養的には不要という考え(通常の食品で対応)、また、母乳栄養を阻害しないよう規制すべきとの意見もあり。

- ・このため、年少幼児用の製品の定義に、「年少幼児の栄養要求に寄与しうる」を含めるか否かが大きな論点の一つとなっており、11月開催の第42回CCNFSDUで議論。

② 2021年度第2回国際広報分科会

2021年度第2回国際広報分科会は、2022年2月25日（金）に、Jミルク会議室を開催場所とするウェブ会議で開催が予定されています。

3) 国際組織活動連絡会議

① 特定賛助会員様及び事業負担金拠出Jミルク正会員様への国際関連事業説明会

日時：2021年9月30日（金）13:30～15:00

場所：お茶の水ユニオンビル5階JミルクB会議室+ウェブ（Zoom）

- (1) 開会
- (2) Jミルク内橋専務理事挨拶
- (3) 国際委員会齋藤委員長挨拶
- (4) 国際関連事業説明
 - ①特定賛助会員及び事業負担金拠出Jミルク正会員の入会状況について
 - ②国際委員会、専門分科会・小分科会の設置、運営について
 - ③2021年度国際委員会の活動計画概要について
 - ④今後の予定

上記議題(4)-①～(4)-④について資料に基づき説明、情報共有するとともに、意見交換が行われました。

② 2021年度第3回 GDP 日本会員連絡会議

日時：2021年10月1日（金）13:00～15:00

場所：お茶の水ユニオンビル5階JミルクB会議室+ウェブ（Zoom）

- (1) 座長挨拶・当会議の進め方について
- (2) 第2回会議以降のGDP関連情報の整理
- (3) 「酪農乳業ネットゼロへの道筋」説明会（9/13）の概要
- (4) 国連食料システムサミットとGDPの関わりについて
- (5) その他（ESCチーム会議等の情報共有）

上記議題(1)～(5)について資料に基づき、情報共有するとともに、意見交換が行われました。

③ 2021年度第4回 GDP 日本会員連絡会議

日時：2021年12月14日（火）15:00～17:00

場所：お茶の水ユニオンビル4階ワイム貸会議室D+ウェブ（Zoomハイブリッド形式）

議題：

- (1) 第3回会議以降のGDP関連情報の整理
- (2) GDP関連イベントにおける要人スピーチまとめ
- (3) 「酪農乳業ネットゼロへの道筋」の取り組みについて
- (4) GDP年次総会について
- (5) DSFの活動について
- (6) 国連食料システムサミット、COP26とGDPの関わりについて（GDP理事会での協議内容を中心に）

上記議題(1)～(6)について資料に基づき、情報共有するとともに、意見交換が行われました。

II 専門分科会活動報告

2021年10月以降、以下の専門分科会・小分科会が開催されました。

1) コーデックス関連活動

① 2021年度第1回コーデックス栄養・特殊用途食品専門小分科会

日時：2021年10月13日（水）13:30～15:30

場所：お茶の水ユニオンビル5階JミルクB会議室+ウェブ（Zoom）

議題：

- (1) 第42回コーデックス栄養・特殊用途食品部会会議の派遣について
- (2) CCNFSU ウェビナー「Preparation for CCNFSU42」聴講報告
- (3) 第42回コーデックス栄養・特殊用途食品部会会議資料の概要報告及び検討
 - 1) 議題1 第42回コーデックス栄養・特殊用途食品部会暫定議題
 - 2) 議題4 フォローアップフォーミュラ規格
- (4) 次回会議の開催について
- (5) Jミルク国際委員会及び専門分科会・小分科会の活動について
- (6) その他

② 2021年度第2回コーデックス栄養・特殊用途食品専門小分科会

日時：2021年10月28日（木）13:30～15:00

場所：お茶の水ユニオンビル5階JミルクB会議室+ウェブ（Zoom）

議題：

- (1) 三省庁意見交換会について
- (2) 第42回コーデックス栄養・特殊用途食品部会会議資料の概要報告及び検討
 - 1) 議題5 Ready-to-use Therapeutic Foods（調理不要でそのまま食べられる栄養治療食）のガイドライン案
 - 2) 議題6 6-36ヵ月齢児のNRVs-R設定のための一般原則
 - 3) その他の議題について
- (3) 次回会議の開催について
- (4) その他

③ 2021年度第2回国際規格専門分科会

日時：2022年1月21日（金）13:30～16:00

場所：ウェブ（Zoom）

議題：

- (1) 第52回コーデックス食品添加物部会出席報告
- (2) 第44回コーデックス総会の乳乳製品関連結果報告
- (3) IDF規格・表示常設委員会会議出席報告
- (4) IDFグローバルデーリーカンファレンス概要報告
- (5) IDFグローバルデーリーカンファレンスのデーリーリーダーズパネル出席報告
- (6) 「乳製品に係るコーデックス規格」（仮称）の出版について
- (7) その他

④ 2021年度第3回コーデックス栄養・特殊用途食品専門小分科会

日時：2022年2月9日（水）14:00～16:30

場所：お茶の水ユニオンビル5階JミルクB会議室+ウェブ（Zoom）

議題：

- (1) 第42回コーデックス栄養・特殊用途食品部会会議資料の概要報告
 - 1) 議題2（コーデックス総会及び/または他の部会から本部会に委ねられた事項）

- 2) 議題3 (FAO 及び WHO から提起された関心事項)
- (2) 第42回コーデックス栄養・特殊用途食品部会会議出席報告
- (3) コーデックス NFSDU サーキュラターの検討
- (4) 次回会議の開催について
- (5) その他

2) 持続可能性関連活動

① 2021年度第2回経済市場専門分科会

日時：2022年1月17日(月) 13:00～17:00

場所：お茶の水ユニオンビル5階B会議室+ウェブ (Zoom)

議題：

- (1) IDF 酪農政策・経済常設委員会/マーケティング常設委員会合同会議出席報告
- (2) IDF マーケティング常設委員会出席報告
- (3) IDF 酪農政策・経済常設委員会出席報告
- (4) IDF グローバルデーリーカンファレンス出席報告
 - 4-1 「政策・経済」セッション
 - 4-2 「マーケティング」セッション
 - 4-3 デーリーリーダーズパネル
- (5) GDP (Global Dairy Platform) 報告
- (6) その他

② 2021年度第2回栄養健康専門分科会

日時：2022年1月18日(火) 13:00～16:55

場所：お茶の水ユニオンビル5階B会議室+ウェブ (Zoom)

議題：

- (1) IDF 栄養・健康常設委員会出席報告
- (2) IDF グローバルデーリーカンファレンス概要報告
- (3) IDF グローバルデーリーカンファレンス「持続可能な食事」セッション出席報告
- (4) IDF グローバルデーリーカンファレンスのデーリーリーダーズパネル出席報告
- (5) 東京栄養サミット2021の開催について
- (7) GDP (Global Dairy Platform) 報告
- (8) その他

③ 2021年度第2回乳業技術専門分科会

日時：2022年1月24日(月) 13:30～17:10

場所：ウェブ (Zoom)

議題：

- (1) IDF 乳業科学・技術常設委員会出席報告
- (2) IDF 環境常設委員会出席報告
- (3) IDF グローバルデーリーカンファレンス概要報告
- (4) IDF グローバルデーリーカンファレンス「加工と技術」セッション出席報告
- (5) IDF グローバルデーリーカンファレンスのデーリーリーダーズパネル出席報告
- (6) IDF ファクトシート(チーズ) 概要報告
- (7) IDF (Global Dairy Platform) 報告
- (8) その他

④ 2021年度第2回酪農生産専門分科会

日時：2022年1月25日(火) 13:00～16:50

場所：ウェブ (Zoom)

議題：

- (1) IDF 家畜の健康・福祉常設委員会出席報告
- (2) IDF 農場管理常設委員会出席報告
- (3) IDF グローバルデーリーカンファレンス概要報告
- (4) IDF グローバルデーリーカンファレンス「Farming」セッション出席報告
- (5) IDF グローバルデーリーカンファレンスのデーリーリーダーズパネル出席報告
- (6) IDF ファクトシート（生殖技術）概要報告
- (7) 講演「乳牛の生産性向上とメタン抑制」
- (8) GDP (Global Dairy Platform) 報告
- (9) その他

3) IDF/ISO 分析法関連活動

① 2021年度第2回微生物・衛生専門小分科会

日時：2022年1月14日（金）13:30～16:30

場所：お茶の水ユニオンビル5階Jミルク5階B会議室＋ウェブ（Zoom）

議題：

- (1) IDF 酪農微生物分析法常設委員会出席報告及び IDF/ISO ビフィズス菌菌数測定法改正案の共同試験実施について
- (2) IDF 微生物分析法ハーモニゼーション常設委員会出席報告
- (3) IDF 微生物学的衛生常設委員会出席報告
- (4) IDF グローバルデーリーカンファレンス「食品安全」セッション出席報告
- (5) IDF グローバルデーリーカンファレンスのデーリーリーダーズパネル出席報告
- (6) その他

② 2021年度第2回分析技術・衛生専門分科会

日時：2022年1月28日（金）13:30～16:00

場所：ウェブ（Zoom）

議題：

- (1) IDF 成分分析法常設委員会出席報告
- (2) IDF 残留物質・化学汚染物質常設委員会出席報告
- (3) IDF グローバルデーリーカンファレンス概要報告
- (4) IDF グローバルデーリーカンファレンス「食品安全」セッション出席報告
- (5) IDF グローバルデーリーカンファレンスのデーリーリーダーズパネル出席報告
- (6) 「IDF/ISO 合同分析法規格」の出版について
- (7) その他

III 国際情報提供

① 国際委員会定期刊行物

国際委員会では、本誌「J ミルク国際委員会ニュースレター」のほか、「国際酪農連盟年次報告」、「乳・乳製品関連コーデックス規格・ガイドライン・衛生規範及び IDF/ISO 合同分析法規格」、「国際会議出席報告書」、「世界の酪農状況」の定期刊行物を発行しています。

③ Jミルクインテリジェンス

発 信 日		標 題
1	2021年8月25日	2021年上半期の中国乳製品市場・米国農務省 GAIN レポートより
2	2021年9月8日	米国の食品サプライチェーンと消費者の課題・新型コロナ禍 2年目の米国の牛乳乳製品市場の現状
3	2021年9月22日	経営構造の変化と規模拡大が進む米国酪農・英国の一般紙の報道と米国農務省の報告
4	2021年10月6日	国境炭素税の導入と酪農乳業への影響・EU、2026年から国境炭素税の導入を発表
5	2021年10月13日	世界の主要輸出国の1～7月の生乳生産量は前年比1.1%増、国際貿易は堅調の一方、中国市場は供給過剰か・欧州委員会「牛乳乳製品市場観測サイト」2021年9月会合報告より
6	2021年10月20日	英国、有識者が「国家食料戦略」を提言・動物性タンパク質を減らし、代替タンパク質の生産を増やすべしと勧告
7	2021年11月2日	米国消費者の乳製品の好みと傾向・米国 IFIC レポートから
8	2021年11月24日	中国によるオーストラリア酪農投資の現状
9	2021年12月1日	2021年の世界の食料貿易額は過去最高に・FAO「食料アウトック」、2021年の生乳生産量を1.5%増加と予測、乳製品貿易量を4.2%増加に修正
10	2021年12月15日	自然に対してポジティブな生産を促進する各国の取り組み事例・IDF「酪農乳業の持続可能性見通し」第4号―食料システムサミット特別号
11	2022年1月19日	米国発 2022年の食品トレンド・食品の小売り業界と外食業界の話題
12	2022年1月26日	EUの乳製品は高水準の価格、減少基調の民間在庫量で推移・欧州委員会「牛乳乳製品市場観測サイト」2021年12月会合報告より

④ Jミルクウェブサイト

Jミルクウェブサイトでは、以下のお知らせ（ニュース）のほか、「[国別データ](#)」、「[世界の酪農家・乳業統計](#)」、「[製品生産量統計](#)」などの国際情報を掲載しています。

情報発信	標 題 及 び 概 要
<p>1</p> <p>お知らせ (2021年9月21日)</p>	<p>「国連食料システムサミット」に向けて GDP と IDF が最新の共同声明を発表しました</p> <p>世界の酪農乳業界を代表する組織であるグローバル・デーリー・プラットフォーム（GDP）と国際酪農連盟（IDF）が、9月23日に開催される「国連食料システムサミット」に向けた共同声明を16日に発表しました。参加各国の首脳に「将来のより強靱性のある、安全で健康的かつ公平な世界のフードシステムの発展における酪農乳業の役割を認識する」ことを強く求めるとしています。</p>
<p>2</p> <p>お知らせ (2021年10月29日)</p>	<p>国際連携による「酪農乳業ネットゼロへの道筋」への参加表明について</p> <p>Jミルクは、日本の酪農乳業セクターにおける温室効果ガス削減の数値目標設定と推進に向けて、グローバル・デーリー・プラットフォーム（GDP）の会員組織として国際的な流れと一体となり、「酪農乳業ネットゼロへの道筋（Pathways to Dairy Net Zero）」の取り組み（イニシアチブ）について参加することを決定いたしました。「酪農乳業ネットゼロへの道筋」の取り組みは、気候変動対策としての温室効果ガス削減における酪農乳業セクターの国際連携の一環として、GDP が国連食糧農業機関（FAO）や国際酪農連盟（IDF）、学術研究機関の「農業温室効果ガスに関するグローバル・リサーチ・アライアンス（GRA）」などのさまざまな国際組織と協力し、本年9月に開催された国連食料システムサミットの時期に合わせて立ち上げました。2021年7月30日付のJミルクニュースでも、この取り組みについて詳しく紹介されています。世界の売上高上位20社の乳業会社のうち11社をはじめ、18か国で40を超える主要な酪農乳業組織が、この取り組みへの支持を表明しています。今後、この取り組みから得られる情報を積極的に活用することで、我が国独自の諸条件も踏まえた酪農乳業セクターの温室効果ガス削減に向けて、酪農家・乳業者・研究者・政府などとともに、技術開発および普及などの施策を具体化させていくことを推進してまいります。また、酪農乳業界の共通行動として世界の人々に幅広く認知してもらうために、日本国内への「酪農乳業ネットゼロへの道筋」のコミュニケーション活動について、伝わりやすい手段の開発を含めて推進してまいります。</p>

3	お知らせ (2021年11月30日)	ファクトブック 動物性食品と植物性食品 <p>Jミルクでは、生活者の課題解決に役立てるため、牛乳乳製品の価値情報等をご提供いたします。今回は「動物性食品と植物性食品」を提供します。</p>
4	お知らせ (2022年1月5日)	「日本の『持続可能で健康な食』を考える」ウェビナーのご案内 <p>Jミルクは2021年11月30日(火)、「日本の『持続可能で健康な食』を考える」をテーマにウェビナー(オンラインセミナー)を開催しました。</p>
5	お知らせ (2022年1月25日)	ACADEMIC RESEARCH Up date -ミルクに関する国内外の最新研究- 地域住民にどのように介入すれば乳製品摂取を増やすことができるのか?～乳製品摂取を増やす住民への介入試験: システマティックレビュー～
6	お知らせ (2022年1月28日)	「2021年度 酪農乳業の国際比較研究会」オンライン開催(ご案内)・持続可能な酪農を拓げる活動を考える(仮題)～英国と日本を比較しながら～ <p>2014年度より毎年開催している標記研究会は、本年度もオンライン開催といたします。本年度の研究会では、昨年度に引き続き、わが国酪農乳業の持続可能な発展方向について、これまで以上に議論を深める観点から、持続的酪農に関する国際調査研究で得られた成果と英国の持続的酪農への転換の現状を報告いたします。そして、その情報を基礎に、「持続可能な酪農をよりはやく拓げるために求められる活動や支援」について、日本と英国の取り組みを素材に比較検討いたします。</p>
7	お知らせ (2022年1月31日)	ジャパンミルクコンGRESS 2021 ご報告 <p>2021年12月に開催した学術研究集会「ジャパンミルクコンGRESS 2021」の報告書を掲載しました。</p>

⑤ 報告書翻訳（仮訳）

発 信 日	標 題 及 び 概 要
<p>1 2021年9月15日</p>	<p>IDF 酪農乳業の持続可能性見通し第4号</p> <p>IDF 酪農乳業の持続可能性見通し第4号（国際酪農乳業情報）を掲載しました</p> <p>アクション・トラック 1 すべての人々に安全で栄養価の高い食料へのアクセスを確保</p> <p>アクション・トラック 2 持続可能な消費パターンへの移行</p> <p>アクション・トラック 3 自然に対してポジティブな生産を十分な規模で促進</p> <p>アクション・トラック 4 公平な生計と所得配分の促進</p> <p>アクション・トラック 5 脆弱性、ショック、ストレスに対する強靱性の構築</p>
<p>2 2021年9月27日</p>	<p>「責任ある持続可能なフードシステムにおける酪農乳業の役割」 IICA・GDP・USDEC 報告書</p> <p>米州農業協力機構（IICA）、グローバル・デーリー・プラットフォーム（GDP）、およびアメリカ乳製品輸出協会（USDEC）が2021年に共同出版した報告書の翻訳（仮訳）です。この報告書は2020年8月開催のウェビナーを要約したものであり、「栄養・健康」「環境」「社会経済」「動物福祉」の4つの領域でまとめられています。</p>
<p>3 2021年12月22日</p>	<p>「炭素クレジットと酪農乳業セクター：売却すべきかどうか？」</p> <p>グローバル・デーリー・プラットフォーム（GDP）、およびクァンティス社（Quantis）が2021年に共同出版した報告書の翻訳（仮訳）です。この報告書は、酪農乳業セクターにおける炭素クレジットの利用について焦点を当て、公正な実用化に向けた課題が示されています。</p>

2. 国際組織の活動報告

I IDF 関連

1) IDF チームアップデート (最新活動状況) から

IDF チームアップデートは、IDF がコミュニケーション強化のために国内委員会宛に定期的にメール送付しています。ここでは、その 2021 年 9 月号、および 11 月号をご紹介します。

① IDF チームアップデート - 2021 年 9 月

国内事務官各位

IDF チームアップデート 2021 年の第 5 号へようこそ。

前号からの期間は短いですが、10 月のビジネスミーティングの前に、追加の最新情報をお送りすることが有用と考えました。

世界の酪農乳業コミュニティは、9 月 23 日に予定されている国連食料システムサミット (FSS) の準備に継続的に取り組んでいます。今号の「IDF の主張」の FSS に関するセクションにある重要な最新情報と行動への呼びかけを参照してください。また、すべての IDF 加盟国に、フードシステム・ヒーロー・ビデオへの参加を促すメールが送信されました。このビデオでは、世界中で最も主要な食料の一つである牛乳を推奨し表現するキャンペーンの一環として、IDF の専門家がグラス一杯の牛乳を持っている写真を編集します。このビデオに参加されたい方は、9 月 20 日までに communications@fil-idf.org に写真を送信してください。

さらに、2021 年 10 月 13 日～10 月 15 日にコペンハーゲンで開催される IDF グローバルデーリーカンファレンスとバーチャル参加のためのウェブサイトが公開されたことを会員国にお知らせします。開催が近づくこのエキサイティングな世界的な酪農乳業イベントの詳細については、<https://idfglobaldairy.org/> をクリックしてください。

9 月 29 日に開催の「世界学乳の日」を祝いましょう。IDF 学乳の情報ハブはコミュニケーションに使用できます。[学乳の情報ハブ \(fil-idf.org\)](https://www.fil-idf.org/) および学乳の情報ハブのリソースページに活動状況の掲載を希望の方は、お気軽にお問い合わせください。

今後ともどうぞよろしくお願いたします。

キャロライン・エモンド、IDF 事務総長

ガバナンス最新情報

IDF プログラムオブワーク

IDF の主張

ニュースとコミュニケーション

出版物

イベントと会議

IDF 本部

親愛なる仲間の皆様、IDF の [コミュニケーションマネージャー](#) と [サイエンスオフィサー](#) の 2 つの採用情報を、皆様のネットワークで回覧ください。

IDF の年末ビジネスミーティングを円滑にするために、[ハイブリッド会議のための IDF ガイドライン](#) を作成しました。このガイドラインは委員長と副委員長に共有済みであり、常設委員会および特別作業部会の議題に入れられました。

ガバナンス最新情報

IDF 理事会の戦略的・組織的レビュー

懸命な努力と協力によって、私たちは戦略的・組織的レビューを完成させました。IDF 戦略 2022～2025 と IDF 戦略行動計画 2022～2025 はどちらも、9 月 20 日までに送付され、総会の事前文書の一部になる予定です。

10 月 12 日の総会で（直接またはオンラインで）お会いできることを楽しみにしています。事前文書は遅くとも 9 月 20 日までに回付されます。アポリナ (Apolina) 氏まで登録をお忘れなく。

IDF プログラムオブワーク

生態系サービスと酪農乳業セクター

- 国連会議および IDF 出版物で使用される事例紹介を募集します - 以下のサイトで提出の意思表示をお願いします：<https://forms.gle/i2RnoXZ8FhDzxtuYA>
- より積極的な役割を果たす意思のある加盟国を募集しています。msanchezmainar@fil-idf.org までご連絡ください。

IDF アニマルヘルスレポート

トピックスの募集：短い記事は、関連性のある（酪農）家畜の健康と福祉のトピックに焦点を当てる必要があります、他の水平的な活動領域（環境、マーケティング、食品安全など）に結び付けることができます。msanchezmainar@fil-idf.org までご連絡ください。

常設委員会の選挙：

- 成分分析方法常設委員会 SCAMC での委員長および副委員長の選出（10 月 12 日にコペンハーゲンで会合）
- 食品添加物・汚染物質分析法常設委員会 SCAMAC の副委員長が空席

共同カントリーアップデート酪農政策・経済常設委員会 SCDFE - マーケティング常設委員会 SCM

皆様の専門家が酪農政策・経済およびマーケティング常設委員会の共同カントリーアップデートに回答したことをご確認ください。締め切りは9月28日です。

IDF の主張

国連食料システムサミット (UNFSS)

プレサミットの詳細については、7月30日に事務総長 DG から送信されたイベントの概要を参照してください。

9月23日に予定されているサミットの詳細については、次のウェブサイトをご覧ください | [国連](#)

GDP - IDF からの共同内部アップデートを作成しました。3月の共同声明を補完するために、9月16日に共同公式声明を発表します。この9月16日の公式声明を、コミュニケーションと主張の活動にご活用ください。

皆様が貴国の FSS 招集者と連絡を取っている場合、政府が**国（または地域）のフードシステム変革の道筋／戦略**を準備しているかどうか、そしてサミットで発表しようとしているかどうかを確認されたいでしょう。フィンランドと南アフリカは、次のサイトでドラフトを共有しています：[加盟国のダイアログの招集者と道筋 - 食料システムサミットのダイアログ](#)

連合に関する最新情報

- 9月6日に、世界農民組織 (WFO) から89か国の選ばれた国に、新しい「[世界の持続可能な畜産連合](#)」への参加を求める手紙が送付されました。貴国の政府がこの連合に参加することを奨励してください。
- 「[子どもとすべて人のための持続可能なフードシステムからの健康的な食事](#)」の新しい行動連合が創設されています (EAT、GAIN、WBCSD が主導)。共通のビジョンは次のとおりです。「すべての人々が持続可能なフードシステムから健康的な食事を食べている世界。健康的な食事が利用可能で、手頃な価格で、特に女性や子供を含む栄養不良に最も脆弱なすべての人々、そして高齢者やマイノリティや先住民を含む伝統的に疎外されているコミュニティが利用できる。」この行動連合は、食料供給、食料環境、食料価格という3つの主要な分野で一貫した行動を調整し、動員し、支援します。その目標は次のとおりです。「持続可能なフードシステムから健康的な食事をとる人の数を2倍にする (手頃な価格で測定)。」この行動連合は、酪農乳業セクターによる綿密な監視と関与を必要とします。
- サミットで「[学校給食連合](#)」が正式に発足する予定です。この行動連合は、世界食糧計画 (WFP) の支援を受けて政府主導で運営されます。民間セクターの関与のための関与プランは、数日中に利用可能になると予想されています。IDF の支援、推奨、参加への関心は、既に WFP によって述べられています。9月9日に受け取った情報に基づいて、56か国と42のパートナーが署名しました¹。インポシブル・フード社とオートリー社 (スウェーデン) は、テトラ・

¹署名した IDF メンバー：フィンランド、スウェーデン、米国、ケニア、ドイツ、デンマーク、ノルウェー、ブラジル、ネパール、アルゼンチン、チリ。署名を検討中：南アフリカ、トルコ、ルクセンブルグ、オランダ、エジプト、日本。IDF パートナー：Canadian Coalition for Healthy School Food, City of Milan, Copenhagen Business School, EAT, FAO, GAIN, GCNF, IFAD, London School of Hygiene and Tropical Medicine, UNICEF, University of LEEDS, University of Toronto, USA Food Systems for the Future, WHO, WFP。

ラバル社および IDF とともに、この連合に関する分科会に参加しました。これらの企業は、環境と気候変動に関する子どもたちへの教育の重要性と、植物ベースの料理について学校の調理師を教育する必要性を主張する学校給食プログラムを積極的に追求しています。私どもは栄養面と科学に基づくことの重要性を強調しました。

「ネットゼロへの道筋」²については、新しいウェブサイトの情報を見つけることができます。[「ネットゼロへの道筋」](#)に参加して、9月13日の情報ウェビナーに参加してください。参加登録は以下でお願いします。

<https://globaldairyplatform.zoom.us/meeting/register/tJEtdeCtrTMvE9aPi2FxTtHs0MdEa-qlthhK>。9月22日の公式立ち上げイベントへのご参加に興味をお持ちであれば、<https://globaldairyplatform.zoom.us/meeting/register/tJErd02sqjotHdyFiVHdCu2Vi8U2Gchqfy-H>で参加登録ができます。

コーデックス食品添加物部会 (CCFA)

CCFAの第52回会期は、2021年9月1日、2日、6日、7日、10日にバーチャルで開催されました。IDFは、C・カストラップ (C Kastrup) 氏 (デンマーク) -代表団長、K・ジョンストン (K Johnston) 氏 (ニュージーランド)、A・セイラー (A Sayler) 氏 (米国)、小松恵徳氏 (日本)、A・デュボア (A Dubois) 氏 (IDF) が代表を務めました。IDFは、GSFAの物理作業部会にも参加し、2021年6月21日～25日に整合化が行われました。IDFの専門家は、米国とニュージーランドの代表も務めました。

CCFAは、食品添加物に関するコーデックス一般規格 (GSFA) の開発に取り組んでいます。この取り組みは、さまざまな食品添加物の許容レベルを追加、削除、または変更する可能性があるため、コーデックス乳製品規格およびGSFAの乳製品カテゴリの食品添加物に影響を与えます。

以下は、乳製品の国際貿易に影響を与えた、または影響を与えるであろう主な論点でした。

- CCFAは、カテゴリ1.1.1液状乳 (プレーン) のクエン酸三ナトリウムの許容量について合意に達しておらず、この規定を保持し、さらなる情報を要求することに同意しました。
IDFは、加盟国に実際の使用レベルと正当性に関する情報を求める予定です。
- コモディティー規格における現在の食品添加物の規定は、食品添加物に関する一般規格と同一ではありません。したがって、CCFAは、整合化と呼ばれるプロセスを通じてこれらの不整合の修正を始めました。過去数年間に IDF で行われた準備作業に基づいて、CCFAは2021年に9つの乳製品規格の整合化を完了し (CXS 208-1999 ブライン中のチーズ、CXS 221-2001 未熟成チーズ、CXS250-2006 濃縮スキムミルクと野菜脂肪のブレンド、CXS 251-2006-脱脂乳と野菜脂肪の粉末状ブレンド、CXS 252-2006-甘味付け濃縮スキムミルクと野菜脂肪のブレンド、CXS 273-1968 カッターチーズ、CXS 275-1973 クリームチーズ、CXS 278 -1978 エクストラハードすりおろしチーズおよび CXS283-1978 チーズの一般規格)、IDFからのサポートを感謝しています。
これは、2021年11月に開催予定のコーデックス総会によって採択される可能性があります。
- IDF アクションチームによって準備作業が完了し、2020年にすでに協議のために CCFA 電子作業部会 eWG に提出された、残りの9つの規格は、2022年に CCFA で扱われる予定です。これらの規格は次の通りです、CXS 207-1999 粉乳およびクリームパウダー、CXS 243-2003 発酵乳、CXS 253-2006 ファットスプレッド、CXS 262-2006 モッツアレラ、CXS 281-1971 無糖れん乳、CXS282-1971 加糖れん乳、CXS 288-1976 クリームおよび調製クリーム、CXS290-1995 食用カゼイン製品および CXS331-2017 デーリーパーミエイトパウダー。

²以前は「ネットゼロ：低炭素酪農乳業への道筋」と呼ばれていました。

ショ糖エステル、タマリンドシード多糖類、アドバンテーム、アスパルテーム - アセスルファムの新しいグループヘッダーについて、乳製品カテゴリで他のいくつかの規定が採択されました。アリテームの規定は、いくつかの乳製品カテゴリで取り消されました。

今後の作業では、硝酸塩と亜硝酸塩、ベータカロチン、二酸化チタン、甘味料、およびアナトーに対処します。

薬剤耐性 AMR に関するコーデックス作業部会

IDF は、統合された監視と監督に関するガイドライン案について、ステップ 3 でコメントを提出しました。

ニュースとコミュニケーション

[コペンハーゲンに集まる IDF の世界の酪農乳業の専門家：IDF グローバルデーリーカンファレンスへの登録が開始されました。](#)

「変化する酪農乳業への風当たり」と題し、国際酪農連盟（IDF）は、10月13日～15日に IDF グローバルデーリーカンファレンスと併せてコペンハーゲンで年次会議を開催します。350人の酪農乳業の人々が、数百人の追加のオンライン参加者と共に参加することが期待されています。

[「学校での牛乳提供プログラムは、子どもの発達にプラスの影響を与える貴重な機会です」と IDF 会長は述べています](#)

IDF 会長ピエルクリスチアーノ・ブラザーレは、7月28日に開催された国連食料システムプレサミットの IDF 全体セッションで、学乳プログラムの重要な役割について概説しました。

[IDF は、成功をあげている「酪農乳業の持続可能性見通し」シリーズの国連食料システムサミット特別号を発表します](#)

IDF は、「酪農乳業の持続可能性見通し」シリーズの第4号を発表しました。これは、国連食料システムサミットの5つのアクション・トラックに導かれ、持続可能な開発への取り組みを実現するために酪農セクターを支援する新しい事例紹介を提供します。

[酪農乳業の重要性を認識することは非常に重要であると、国連食料システムサミットに先立って IDF 会長は述べています](#)

IDF 会長ピエルクリスチアーノ・ブラザーレは、2021年7月26日～28日にイタリアで開催された国連食料システムプレサミットに先立ち、健康的で持続可能な食事における牛乳乳製品の重要な役割を強調しています。

酪農乳業に関する新しいポッドキャスト

IDF 前会長のジュディス・ブライアンス博士は、「Dairy in Discussions」というタイトルのポッドキャストを始めました。最初の2つのエピソードは、Spotify または iTunes で見つけることができます。

その他のニュース

[国連食料システムサミットで食品安全に焦点を当てる連合 | 食品安全ニュース](#)

食品安全連合は、国連食料システムプレサミットのセッションで発表しました。9月に予定されているサミットには5つのアクション・トラックがあり、最初のアクション・トラックはすべての人が安全で栄養価の高い食品にアクセスできるようにすることです。プレサミットは7月末の3日間にわたって開催されました。

[それは牛ではなく、その方法です：長年のベジタリアンが牛肉の最大のチャンピオンになった理由](#)

ニコレット・ハーン・ニマン氏は、肉牛牧場主になりましたが、以前は33年間肉を食べなかった環境弁護者でした。生態系と人間の健康の両方にとって、重要なのは動物の飼育方法であると彼女は主張します。

[未来の食料供給：持続可能な動物性タンパク質の世界的なイノベーション](#)

国連食料システムプレサミットは、7月26日～28日までローマのFAO本部で開催されました。IMSは附属セッションを開催しました：未来の食料供給、持続可能な動物性タンパク質の世界的なイノベーション。

[新しいFAO出版物：獣医サービスの提供と動物の疾病の報告に対するCOVID-19の影響](#)

コロナウイルス感染症2019 (COVID-19) の世界的大流行は、動物保健セクターで働く人々を含む世界中の個人、コミュニティ、社会の生活を変えました。COVID-19が動物保健セクターの従事者の活動と動物の疾病を報告する能力に与える影響をさらに調べるために、国連食糧農業機関 (FAO) の動物衛生危機管理センター (EMC-AH) と家畜衛生緊急予防システム (EMPRES-AH) は、トピックに関するデータの収集と分析のための調査を実施しました。

FAOとWHO 2021年の世界食品安全デー - 祝祭と創造性の概要

要約

「健康な明日のための今日の安全な食品」をテーマに、世界食品安全デー (2021年6月7日) は、安全な食品を生産および消費することの短期的および長期的な利益に焦点を当てました。食品安全は食料の安定供給と健康の一部であることを思うための一日となりました。それは、人、植物、動物、環境、経済の本質的なつながりを認識する時間でした。そして、それは創造性を高める瞬間でした。

国際機関、政府、企業、非政府機関、学者、および90か国からの人々が集まり、その成果を紹介し、優先事項について話し合い、食品安全分野の課題を克服する方法を計画しました。パンデミックによって、多くのイニシアチブがバーチャル開催されるようになり、主催者はソーシャルメディアやオンラインイベントなどで想像力を働かせて視聴者にリーチするようになりました。

この要約では、2021年5月と6月に世界中の何百万人もの人々が参加したウェビナー、ビデオ、記者会見、メディア報道、コンテスト、ソーシャルメディアの投稿、キャンペーンを垣間見ることができます。

FAO、WHO、コーデックス委員会、INFOSANのウェブサイトで、食品安全について詳しく調べてください。

ここで入手できます：

[世界食品安全デー2021 \(fao.org\)](#)、[英語](#)、[アラビア語](#)・[ロシア語](#)・[フランス語](#)・[中国語](#)・[スペイン語](#)

今後の国際デーのリスト (9月～10月)

- 9月29日 - 世界学乳の日
- 10月4日 - 世界動物の日
- 10月14日 - 世界標準の日

出版物

[ISO / TS 23758 | IDF / RM 251 : 2021-乳および乳製品中の動物用医薬品の残留物質を検出するための定性的スクリーニング方法の検証に関するガイドライン](#)

液状乳中の動物用医薬品の残留物質を検出するための定性的スクリーニングテストの検証と検証のための新しい IDF/ISO ガイダンス。スクリーニングテストキットの製造業者、スクリーニング方法またはテストを検証する研究所、管轄当局および酪農乳業者、または乳製品中の動物用医薬品残留物の検出のための試薬またはテストのエンドユーザーの結果を完全に信頼するための手順の調和。

第4号「IDF 酪農乳業の持続可能性見通し」

IDF「酪農乳業の持続可能性見通し」第4号は、国連食料システムサミットに向けた特別号です。サミットの5つのアクション・トラックに導かれ、酪農乳業コミュニティの事例が紹介され、持続可能な生産システムを通じて安全で栄養価の高い食品で世界の人々に栄養を与えることにセクターがどのように取り組んでいるかが示されています。

イベントと会議

IDF 技術ウェビナーシリーズ

これまでに IDF 技術ウェビナーシリーズにご参加いただいたすべての方々に感謝します。これは大成功であり、私たちすべてが直面している困難な状況において、世界中の専門家らが酪農乳業科学の情報を交換・共有するためのプラットフォームを提供することに役立っています。

デジタルデーリー

- ウェビナー1：2021年6月21日（月） - より持続可能な生産のためのデジタルツール：精密農業から生乳の品質まで、家畜生産、健康指標、ロボットに関するデータがどのように接続されているか。
- ウェビナー2：2021年6月23日（水） - データ革命と生乳の品質：生乳の組成的および微生物学的品質を追跡し、システムを統合化させるための新しい方法論。
- ウェビナー3：2021年6月28日（月） - 加工処理とスマートファクトリー：スマートファクトリー、加工処理、および接続における IoT の使用
- ウェビナー4：2021年6月30日（水） - パート：ブロックチェーンと透明性のあるバリューチェーン：デジタル化がより透明性のあるバリューチェーンを提供する方法と、ブロックチェーン技術と分散型台帳がサプライチェーンに革命をどのように起こすか。これらのテクノロジーの法的な意味は何か？

今後のウェビナーとバーチャルイベントの詳細：

世界学乳の日 - 9月29日

9月29日 12:00-13:15 CET の「学乳の日」に IDF ウェビナーの日程を確保して下さい。

私たちがウェブサイトに追加して報告できるように、皆様の国内の祝福の写真、ビデオ、そしてメッセージを共有してください。

IDF 年末ビジネスミーティング

登録の締め切りは 9月24日です。 <https://www.surveymonkey.com/r/QXQBSL6> でサーベイ・モンキーに記入してください。このリンクは、会議の議題にも含まれています。

2021年10月13日～15日：IDF グローバルデーリーカンファレンス 2021（IDF ビジネス会議9日～12日）

IDF グローバルデーリーカンファレンスは2021年10月13日～15日にデンマークのコペンハーゲン

で開催されます。ビジネスミーティングは10月9日～12日に、カンファレンスは10月13日～15日に開催されます。この会議はハイブリッド方式で、物理的およびバーチャルでの参加が可能となる予定です。詳細については、www.idfglobaldairy.orgをご覧ください。

② IDF チームアップデート - 2021年11月

国内事務官各位

IDF チームアップデート 2021年の第6号へようこそ。

2021年第4四半期の終わりに向けて、この数か月間のハイライトと成果をいくつか振り返ってみたいと思います。

2021年10月13日～15日にコペンハーゲンで開催されたハイブリッド形式でのIDFグローバルデーリーカンファレンスが成功を収めたことについて、デンマークの仲間たちに心より感謝したいと思います。もしこのイベントをお見逃しになったのであれば、カンファレンスのすべてのセッションの録画は、[こちらの](#) IDF e-ショップで販売されています。

[IDF「世界の酪農状況2021 \(World Dairy Situation 2021\)」](#)は10月に発表されましたが、会員の皆様には、この報告書のプロモーション資料を皆様のネットワークで回覧していただきたいと思います。また、この報告書の紹介ビデオへのリンクは[こちらからご覧](#)いただけます。

また、[IDF「アニュアルレポート2020-2021」](#)も手に入れて読むことができ、今年の報告書のスナップショットをプレビューした[ビデオ](#)も視聴できます。

これが年内の最後の号となりますので、私自身とIDFチームを代表して、皆様のご支援とご協力に感謝するとともに、心より季節のご挨拶と新年のご挨拶を申し上げます。

今後ともよろしく願いいたします。

キャロライン・エモンド、IDF 事務総長

ガバナンス最新情報

IDF プログラムオブワーク

IDF の主張

ニュースとコミュニケーション

出版物

イベントと会議

IDF 本部

この度、新しいサイエンスオフィサーを採用しましたのでお知らせします。アナ・イザベル・ムレット・カベロ (Ana Isabel Mulet Cabero) 博士は、2022年1月1日に着任します。

コミュニケーションマネージャーの募集を行っています。

ガバナンス最新情報

IDF 理事会の戦略的・組織的レビュー

10月12日、IDF総会は「IDF戦略2022～2025」と「IDF戦略的行動計画2022～2025」を承認しました。IDFカナダ国内委員会は、本文の最終の修正を行うことを申し出ました。

選挙

理事会：ヘレ・ハズビー (Helle Huseby) 氏 (ノルウェー) とミンファン・ルー (Minfang Lu) 氏 (中国) が IDF 理事会の2期目に選出されました。

科学・計画調整委員会 (SPCC) : SPCC では、マレーサ・フェルマアク (Maretha Vermaak) 氏 (南アフリカ)、ベノワ・ルイエ (Benoît Rouyer) 氏 (フランス)、キーラン・ジョーダン (Kieran Jordan) 氏 (アイルランド)、リチャード・ウォルトン (Richard Walton) 氏 (日本) が2期目に選出されました。また、アンドリュウ・ノバコヴィッチ (Andrew Novakovic) 教授 (米国) が3期目に選出されました。農場管理分野の担当として、リンダ・マクドナルド (Lynda McDonald) 氏 (スウェーデン) が1期目に選出されました。

新たな回付状

なお、SPCCの酪農乳業(製造加工)分野の担当者への候補者の回付状は10月25日に送付済みです。締め切りは3月15日です。

IDFワールドデーリーサミット2023の候補国を募集する回付状を10月25日に送付しましたので、ご確認ください。締め切りは3月15日です。

IDF プログラムオブワーク

2021年 年末ビジネスミーティング

科学・計画調整委員会 (SPCC)

SPCCは、常設委員会委員長及び副委員長からのフィードバックを検討し、2022年に向けて以下のIDF優先プロジェクトを決定しました。

- 食品添加物常設委員会 (SCFA) : 乳製品規格とコーデックス食品添加物一般規格の間の食品添加物条項の整合化
- 残留物質・化学汚染物質常設委員会 (SCRCC) : 汚染物質に関する情報プラットフォーム - IDF 洗剤と消毒剤に関するガイダンス
- 環境常設委員会 (SCENV) : カーボンフットプリント (LCA) に関する IDF ガイドの更新
- 微生物学的衛生常設委員会 (SCMH) : 水の使用と再利用に関する CCFH ガイドラインへの IDF ガイドライン及び IDF 意見

また、SPCC は、合意された活動の実施を監視するために、「国連食料システムサミットに関する特別作業部会」をさらに 2 年間継続することを確認しました。

SPCC のいくつかのサブグループは、新たに合意された酪農乳業イノベーション (Dairy Innovation) 賞の基準を支援するとともに、専門家のためのガイダンスを能率化し、IDF 技術ウェビナーの計画をより戦略的に見直し、食品ロスと食品廃棄に関するディスカッション・ペーパーを作成するために設立されました。

酪農政策・経済常設委員会・マーケティング常設委員会合同会議 (SCDPE-SCM)

10 月 11 日、SCDPE と SCM の専門家がハイブリッド形式で会議を行いました。合同カントリー・アップデートと消費動向に関するカントリーレポート要約が説明されました。カントリー・アップデートに関するファクトシートは数週間以内には出版される予定です。IDF「世界の酪農状況 2021」が紹介されました。インドのニューデリーで開催される IDF ワールドデリーサミット 2022 において、IDF ブリテン「世界のマーケティング動向 (Global Marketing Trends)」を以下のタイトルで発表することが決定されました：「新型コロナ禍の状況下における世界中の牛乳乳製品消費の変化の理解 (Understanding changes in dairy consumption around the world in the context of Covid-19)」。CNIEL がアクションチームを率いて、このブリテンの作成を担当します。

環境常設委員会 (SCENV)

生態系サービスの活動は、現在、事例紹介の選定と報告書の完成に集中しています。マリア・サンチェス・マイナー (Maria Sanchez Mainar) 氏 (IDF) がアクションチームの支援を受けながら活動を進めています。この活動は、2022 年初頭に終了する予定です。IDF「酪農乳業の持続可能性見通し (Dairy Sustainability Outlook)」第 4 号は、[IDF 公式ウェブサイトでご覧いただけます](#)。IDF 酪農乳業の持続可能性見通し第 4 号は、国連食料システムサミットに向けた特別号です。サミットの 5 つのアクション・トラックに沿って、酪農乳業コミュニティの事例紹介が行われており、持続可能な生産システムを通じて、安全で栄養価の高い食料を世界の人々に供給するために、酪農乳業セクターがどのようにコミットしているかが紹介されています。ライフサイクルアセスメント (LCA) に関するアクションチームは、査読を作業の流れに分けましたが、その文書は現在修正中であり、最終版は 2022 年の第 1 四半期に入手できる予定です。このアクションチームは進行中の別の活動とも連絡を取り合っており、例えば、炭素隔離 (C-sequestration) は別のグループが開発中であり、その IDF 文書は炭素隔離の活動を参照することになります。最後に、環境にやさしい技術アクションチームは、乳業加工レベルでのエネルギーの持続性に関する草案を作成済みです。

家畜の健康・福祉常設委員会 (SCAHW)

3 年間の活動による「新規及び治療した臨床及び潜在性乳房炎の定義」の活動は、コメントをもとに最終的な修正を行っています。その最終版は近日中に各国国内委員会に回付される予定です。

「暑熱ストレス」に関するアクションチームは、世界各地の乳牛や水牛に悪影響を及ぼす暑熱ストレスを特定、定量、対処することを目的としています。

経済的側面、動物福祉的側面、環境的側面 (暑熱ストレスによるロスとその軽減から得られる便益) を扱う予定です。活動は、新興国 (ここ数年で需要と生産が大幅に増加している) と温帯気候の国 (世界の牛乳のほとんどが生産されている) を対象とします。「出生から離乳までの子牛の管理」に関するアクションチームについて、本常設委員会は期限の延長を了承しました。現在の活動は、収集したデータのまとめと評価、そして次回のウェビナーの準備です。「生殖技術」に関する 2 つ

のファクトシート（人工授精と胚移植）が出版され、以降の2つのファクトシートは優先順位リストに基づいて決定されます。IDFは、コーデックスの薬剤耐性（AMR）作業である「食品由来の薬剤耐性を最小限に抑え、封じ込めるための実施規範」（COP）と「食品由来のAMRの統合的なモニタリングとサーベイランスのためのガイドライン」（GLIS）についてコメントを提出しました。COPはステップ8で採択される予定です。GLISはより多くの作業が必要です。「動物の健康と生産性のためのセンサーの使用に関するガイドライン」の活動は、[ジャーナル・オブ・デーリー・サイエンス（Journal of Dairy Science）](#)誌に掲載されました。出版はソーシャル・メディアで伝えられることになっています。アクションチームは、代謝性疾患に関する次のテーマを継続しています。IDF「アニマルヘルスレポート」は11月に発行されます。IDF [パラ結核症フォーラム（Paratuberculosis Forum）](#)は、2022年のICPミーティングに合わせて開催される予定です。

農場管理常設委員会（SCFM）

IDF 酪農家の円卓会議は継続しています。追加のボランティアを歓迎しますので、関心のある人はこの会議の後、ヘレン氏またはビルテ氏に連絡してください。IDFのアクションチームは、家畜飼料の動向の活動について、このウェビナーシリーズの計画を立てなければなりません。最後に、搾乳機と搾乳方法に関する活動は、まもなくISOで開始されるため、各国の標準化団体を通じて、またはマリア（Maria）氏を通じてIDFからの専門家を推薦して下さい。

乳業科学・技術常設委員会（SCDST）

「乳業での分子学的手法の利用」に関する活動は順調に進んでおり、2023年に完了する予定です。現在の活動は目標通りです。来年には事例紹介が収集される予定です。特異性、正確性、スピードが分子生物学的手法の主な利点です。主な目標は、研究室から産業界への情報の移転です。ミルクツリーは、より多くのファクトシートや公開されたレビュー記事へのリンクで完成される予定です。熱処理に関する文書は現在、国内委員会で検討されています。主なポイントは、低温殺菌によるリパーゼの不活性化、乳清タンパク質の変性やその他の熱処理による副作用、耐熱性細菌とBacillusの専門用語、低温殺菌の温度が保存期間に与える影響、商業的無菌性の検証などです。キャリア初期の科学者の参加に関するプロジェクトでは、この賞の資金調達のためのオプションを模索する必要があります。

規格・表示常設委員会（SCSIL）

酪農用語の保護に関しては、IDFの規制専門家がGSUDTに関するIDFブリテンを改訂し、乳製品代替品として植物由来の食品や飲料が増加しているという現在の課題に対応したガイドラインの解釈を支援しました。

さらにアクションチームは、会員が相互に学び、世界中で酪農用語がどのように保護されているかをよりよく理解するために、各国の法律に関する調査票を回付しています。

参加者はまた、欧州マーガリン協会がコーデックス油脂部会（CCF0 27）に提出した、ファットスプレッドとマーガリン規格の見直し及びコーデックス規格256-2007におけるマーガリンから「植物性バター」への名称変更の提案についても議論しました。これはコーデックスGSUDTに直接違反しています。この提案は、国の代表団を欠いており、国のスポンサーがいなければ、作業は検討されません。メンバーらは、普及活動のアクションプランに合意しました。

会議後のメモ：

CCFO 27 では、マーガリンに加えてこの用語を使用することを提案しましたが、消費者に誤解を与える可能性があることや、「植物性バター」という用語が「酪農用語の使用に関する一般規格」（CXS 206-1999）に反することを指摘し、多くの代表団から反対の声が上がりました。そのため、作業を開始するための支持は得られませんでした。

この項目に続いて、メンバーは、アレルゲン表示、トランス脂肪酸（TFA）のリスク管理、持続可能性表示の開発など、この常設委員会にとって重要な他のコーデックス作業項目について議論しました。特に、コーデックス食品表示委員会で最終的に決定された「容器前面の栄養表示」の開発に関する作業に焦点が当てられました。

IDF は我々が設定したすべてのことを達成したため、重要な成果はこの項目にあります（容器前面の栄養表示（FOPNL）への意見）。このガイドライン原案は、委員会のステップ 5/8 で採択されることが推奨されました。

規定：

1. **任意**または強制
2. FOPNL は、**エビデンスに基づく国や地域の食事指導**、またはそれがない場合には健康・栄養政策に沿ったものでなければならない。**これらの文書で摂取が推奨されている、あるいは推奨されていない栄養素や食品群を考慮する必要がある。**
3. 消費者の FOPNL は理解と使用を高めるために、**消費者教育／情報提供プログラム**を伴うべきである。
4. FOPNL は、有効性と影響を判断するために、**モニタリングと評価**を行う必要があります。
5. CCFL での FOPNL に関する作業では、栄養素プロファイリング（Nutrient Profiling）の必要はない。

会議後のメモ：

CAC は、ステップ 5/8 で「容器正面の栄養表示に関するガイダンス」を採択しました。

環境食品表示は、民間企業、政府、食品会社、そして現在では CODEX（CCFL）が関与して検討していることで注目を集めています。本常設委員会は、現在の環境をよりよく理解し、この問題に関するコーデックスの議論に参加する準備をするために、環境ラベルに関する新規活動項目の提案「持続可能なフードシステムにおける健康的な食事のための指標」を設定することに合意しました。

栄養・健康常設委員会（SCNH）

この会議では、持続可能な食事とその生態系への影響を測定するために使用されている現行の測定基準を見直すことを目的とした活動項目について議論しました。現在、持続可能な食事に用いられている指標は、食品のマトリックスや栄養素の質を考慮することなく、製品 1 kg あたりの量に基づいています。現状では、動物由来の食品は植物由来の食品に比べて持続可能性が低いと考えられがちです。そこで、活動では、この指標に挑戦し、栄養を方程式に組み込むことを目指しています。ローレンス・リッケン（Laurence Ryken）氏が不在の間、外部の研究者に依頼して、現在、科学文献で使用されている指標の種類を調査しました。この背景情報をもとに、アクションチームは活動を 2 つの流れに分けて進めました。1 つはコミュニケーション／エコラベルに関するもの（SCSIL の最新

情報を参照)、もう1つは栄養指標の背景にある証拠に関するものです。FAOも同様のプロジェクトに取り組んでおり、アクションチームは両プロジェクト間のつながりを確保する予定です。

参加者は、今年5月に開催された栄養シンポジウムの成功について議論し、来年も開催したいかどうかをメンバーに尋ねました。メンバーは、医療従事者を対象とした公開バーチャル・シンポジウムを再度開催することが最善であると合意しました。

最後に、学乳プログラムに関する継続的な活動の提案が議論されました。学校給食プログラムは、国連食料システムサミット (UNFSS) によって「ゲームチェンジング・ソリューション」として認識されたため、IDF は世界中の学校給食プログラムに牛乳製品が継続して含まれるようにすべきです。新規活動項目は以下のように準備されています。

- IDF を学乳プログラム (SMP) の世界的な専門家として確立する。
- 世界的な SMP に貢献し、給食プログラムに牛乳製品を取り入れることを奨励する。
- UNFSS 学校給食連合が推進する活動やイニシアチブにおいて、SMP が重要な焦点となるようにする。

微生物学的衛生常設委員会 (SCMH)

SCMH は、通常の円卓会議では特に懸念事項を指摘しませんでした。いくつかの国では、全ゲノム配列解析がアウトブレイクの判定や調査中には有用であると報告しています。SCMH は、2022 年の優先プロジェクトとして位置づけられている「水の再利用」に関する活動の状況について議論しました。この活動は、コーデックスの作業への意見から構成されており、現在、一次原案が公開されています。後に、乳製品に関する特別付属書が含まれる予定です。JEMRA (FAO/WHO 合同微生物学的リスク評価専門家会議) の報告書が公開されました。

IDF ファクトシートの第一稿が査読のため入手可能になりました。化学物質のリスクに焦点を当てた IDF ガイダンスを早急に作成すべきであると提案されました。**その目的のためには、SCMH、SCDST、SCENV、SCRCC のより多くの専門家が必要です。**

それ以外にも、サルモネラ菌の発生に関するファクトシートの草案について、現在協議が行われています。

質問票 0321 - 微生物食品カルチャーの目録 (Inventory of Microbial Food Cultures) に対する回答の要約が回付されました。アクションチームリーダーは寄せられたコメントを検討し、文書は出版に向けて最終的に編集中です。

最後に、SCMH は、プロセス環境モニタリング及びサンプリングに関するガイドラインの両文書を揃えることに合意しました。

本常設委員会は次回 2022 年 5 月に開催されます。

残留物質・化学汚染物質常設委員会 (SCRCC)

SCRCC は通常の円卓会議で、酸化エチレンは酪農乳業に直接関わる問題ではないものの、他の供給源から乳製品に「染み込む」可能性があるにもかかわらず、いくつかの場所で発生しているリスクであると指摘しました。他の IDF 常設委員会や JECFA などの情報源も確認する予定です。

SCRCC の汚染物質に関する情報プラットフォームのサブグループである消毒剤／洗剤／乳頭浸漬剤に関するプロジェクトが、4 つある IDF 2022 優先プロジェクトの 1 つに選ばれました。

汚染物質に関する情報プラットフォームのアクションチームの下にあるグループは、まだ出版が実現していないにもかかわらず、非常に活発に活動しています。SCRCC 会議からのラウンドテーブル化合物は、プラットフォーム全体の化合物リストにすでに含まれています。

塩素酸塩に関する出版物と、消毒剤／洗剤／乳頭浸漬剤に関する出版物は、それらが重複しているため、一緒に仕上げる予定です。塩素酸塩については、受け取ったコメントに基づいて、書式設定、相互参照、編集作業の更新を行います。コメント後の修正が満足いくものであることを確認するために、国内委員会に返送される予定です。殺菌剤／洗剤については、文書が確定した時点で通常の手順を踏むこととなります（SC 承認後、質問状による国内委員会の承認）。

SCRCC では、情報プラットフォームの一環として「マイクロ／ナノプラスチック」の活動も行っています。このテーマについては、まずブリーフィングシートの最初の原案を作成し、アプローチにおける活動／反応を決定することにしました。明確な定義と方法論の整合化が必要です。さらに、汚染経路を明確にする必要があります。

次回の会議は 2022 年 5 月を予定しています。

成分分析法常設委員会（SCAMC）

新委員長：リチャード・ジョンソン（Richard Johnson）氏（ニュージーランド）

新副議長：ハンス・クルジセン（Hans Cruijssen）氏（オランダ）

退任したフィリップ・トロサート（Philippe Trossat）氏（フランス）には、過去 6 年間の常設委員会のリーダーシップに心から感謝の意が表され、グローバルデーリーカンファレンスの IDF ガラディナーで IDF リーダー顕彰賞（Leader Recognition Award）を授与されました。

SCAMC は、AOAC と ISO のプロジェクトのうち、乳製品に関連するものについて幅広く議論しました。AOAC で開始された「乳児用調製粉乳中の A2 ベータカゼインの定量方法」に関する新規活動項目の提案を開始することが合意されました。SCAMC メンバーは、現在の AOAC の標準試験法成績要件（Standard Method Performance Requirements）の草案に対するコメントを求められています。

チーズのサンプリングに関するガイダンスの IDF/ISO 規格が完成に近づきました。常設委員会は、IDF と ISO の専門家に調査を行い、範囲を広げることへの関心を調べることに同意しました。この調査の結果は現在評価中であり、このテーマで新規活動項目を準備するかどうかを決定します。

ISO 5537|IDF 26 - 乾燥乳 - 水分含量の測定（参照法）を改訂し、全粉乳及び脱脂粉乳から範囲を拡大して、乾燥乳製品全般への適用を実証するために、国内委員会の承認を得るための新規活動項目が送付されます。また、コーデックス加盟国が直面している課題に対応するため、現在のその方法の使用状況について国内委員会に調査を行う予定です。

酪農微生物分析法常設委員会 (SCADM)

SCADM は、ISO 10932|IDF 223:2010 - 乳及び乳製品 - ビフィズス菌及び非エンテロコッカス乳酸菌 (LAB) に適用される抗生物質の最小発育阻止濃度 (MIC) の決定方法を改訂するための新規活動項目提案を準備することに合意しました。本提案は常設委員会のレビュー中です。

常設委員会はまた、ISO 29981|IDF 220 ビフィズス菌と仮定される菌の計測 (Enumeration of presumptive bifidobacteria) の改訂に関するプロジェクト D09 について、共同研究を開始する前に、いくつかのパラメータを微調整するためのさらなる予備的研究が必要であることに合意しました。

また、SCADM は、プロバイオティクスの決定に関する改訂版ブリテンが完成し、出版に向けて最終編集中であることにも言及しました。委員長は、完成に至ったことについて、すべての寄稿者に感謝しました。

常設委員会は、スイスのメンバーがフローサイトメトリーによる菌株の判定に関するプロジェクトを復活させたいと考えていることを伝えました。この件については、次回の会議でさらに検討される予定です。

次回の会議は 2022 年 4 月 28 日、ドイツのコンスタンスで、IDF/ISO 分析ウィークの一環として開催される予定です。

微生物分析法ハーモニゼーション常設委員会 (SCHMM)

前回の SCHMM に引き続き、3 つの IDF 新規活動項目の提案が常設委員会メンバーと分析規格ステアリンググループ (MSSG) によって検討されています。

- ISO/TS 11059|IDF/RM 225:2009 「乳及び乳製品-*Pseudomonas* spp. の計数方法」の改訂
- ISO/TS 27265 | IDF/RM 228 「乾燥乳 - 好熱性細菌の特に耐熱性の孢子の計数方法」に代替熱処理法を含める。
- IDF ブリテン「酪酸生成 (チーズ腐敗) クロストリジウム属の芽胞計数方法の検討」(H26)。

その後、提案は 1 月に IDF 科学・計画調整委員会 (SPCC) で検討され、IDF 国内委員会で投票される予定です。

また、SCHMM のメンバーは、食品微生物学に関する ISO のグループ (ISO/TC 34/SC9) との整合化の機会についても検討しており、特に芽胞に関するトピックについて検討しています。

最後に、委員長と副委員長の候補者を募集します。パトリア・ロリエ (Patricia Rollier) 氏 (フランス) が引退したため、副委員長のポジションは空席となっています。現在の委員長職はバーバラ・ゲルテン (Barbara Gerten) 氏が務めており、ゲルテン氏は任期の延長を快諾しましたが、新しい候補者を探す必要もあります。

IDF の主張

国連食料システムサミット概要

107 の国家の道筋がアップロードされました

10月20日現在、食料システムサミット・ダイアログ・ゲートウェイでは、2030年までに持続可能な国家のフードシステムに向けた107の国家の道筋が共有されています。この道筋は、緊急の意思決定と集団行動のための優先事項を特定する活発な戦略文書です。各国の道筋の詳細と最新版については[こちら](#)をご覧ください。

31の行動連合：[ソリューションと連合 - 食料システムサミット・コミュニティ](#)

231のコミットメントを行動に移す：[コミットメントの登録 - フードシステムサミット・コミュニティ](#)

CFS

CFS49では、「2021年食料安全保障と栄養の現状」報告書、「食料システムと栄養に関するCFS自主ガイドライン」の取り込み、国連食料システムサミット、CFS複数年作業計画、ジェンダー、若者、気候変動に焦点が当てられました。全体会議はバーチャル形式で行われました。来年のCFSは10月17日～21日に開催されます。

CFSの新しい委員長には、スペインのガブリエル・フェレロ（Gabriel Ferrero）閣下が選出されました。

コーデックス

油脂部会（CCF027）

欧州マーガリン協会（IMACE）はこの提案を紹介し、ファットスプレッドとブレンドスプレッドの規格（CXS 256-2007）の改定の提案をカバーしていると述べ、特に植物由来の脂肪を適切に表現する用語が必要であり、これらの製品の需要が高まっていることから、「プラントバター」のような用語が必要であるとしました。

この会議では、主に「植物性バター」という用語の使用について議論されました。多数の代表団から、マーガリンに加えて「植物性バター」という用語を使用することが提案されているが、これは消費者を誤解させる可能性があり、「植物性バター」という用語は酪農用語の使用に関する一般基準（CXS 206-1999）に抵触するとの反対意見がありました。インドネシアは、提案されている新しい作業に賛成し、特に植物由来のスプレッドに対応する必要性と「プラスチック」という用語に関する混乱に対処する必要性がありました。フランスは、フランス語版の規格には「プラスチック」という用語が出てこないため、英語版の翻訳または編集上の問題ではないかと指摘しました。また、南アフリカは、乳及び乳製品に関するコーデックス委員会（CCMMP）に対し、「植物性バター」という用語の使用に関する手引きを要請しました。

多くの加盟国から反対意見が出されたため、時間の都合上、IDFには発言権が与えられませんでした。しかし、IDFはチャットを通じて、加盟国のコメントを受けて、新規作業の反対を支持する意見を述べました。

結論として、CCF027は、ファットスプレッドとブレンドスプレッドの規格の修正・改訂に関する新規作業の提案については、用語の改訂案に対する一般的な懸念から、支持するというコンセンサスは得られなかったと述べました。

CCFO では、トランス脂肪酸の摂取に関するリスク管理に着手するなど、その他の関心事項が引き続き議題として取り上げられました。IDF は引き続き監視し、必要に応じて関与していきます。

食品表示部会 (CCFL46)

コーデックス食品表示委員会は、9月27日から10月1日まで第46回会合を開催しました。IDFは、メリッサ・キャメロン (Melissa Cameron) 氏 (オーストラリア - IDF代表団長)、マット・モリソン (Matt Morrison) 氏 (カナダ - 共同代表団長)、メラニー・グリビエ (Melanie Grivier) 氏 (フランス)、ローレンス・リッケン (Laurence Rycken) 氏 (IDF) が代表として参加しました。その他のIDFの専門家は、ニュージーランドと米国の代表団に参加しました。

この会議の主な成果は、非小売容器のガイドラインと容器正面の栄養表示に関するガイダンスの完成でした (主な成果についてはSCSILを参照)。

CCFLは、アレルギー表示や電子商取引に関するガイダンスの策定作業を継続します。また、食品表示における技術のイノベーション利用と持続可能性の強調表示に関する作業も開始します。IDFは、酪農乳業セクターに影響を与えるテーマに積極的に取り組んでいきます。

最後に、トランス脂肪酸 (TFA) の摂取に関するリスク管理の選択肢を設定する作業は、他のコーデックス委員会、すなわち油脂部会 (CCFO) で取り上げられる予定です。IDFはこの議論を注視し、TFAの供給源を区別することを提唱していきます。

IDFの意見がこれらのコーデックス作業に反映されるよう、IDF会員が各国代表団に積極的に働きかけてくれたことに感謝いたします。

詳しくは、IDFオブザーバー[レポート](#)をご覧ください。

コーデックス委員会 (CAC44)

コーデックス委員会の第44回総会 (CAC44) は、11月8日～13日、15日、そして17日の一部を使ってバーチャルで開催されました。11月17日の残りの時間と11月18日のすべての時間は報告書の採択に使われました。CAC44の議長はギエルメ・アントニオ・ダ・コスタ・ジュニア (Guilherme Antonio da Costa Jr.) 氏 (ブラジル) が務め、副議長のプルウィヤトノ・ハリヤジ (Purwiyatno Hariyadi) 氏 (インドネシア)、マリアム・イード (Mariam Eid) 氏 (レバノン)、スティーブ・ウェアン (Steve Wearne) 氏 (英国) が補佐しました。セッションには905名の参加登録者がおり、133の加盟国、1つの加盟団体、54のオブザーバー組織から約450名の代表者が毎日出席しました。IDF代表団は、食品規格ステアリンググループ (FSSG) 委員長兼代表団長のアレン・セイラー (Allen Sayler) 氏 (米国)、SPCC委員長のジェイミー・ジョンカー (Jamie Jonker) 氏、ローレンス・リッケン (Laurence Rycken) 氏 (IDF)、オーレリー・デュボア (Aurélie Dubois) 氏 (IDF) でした。

酪農乳業セクターに関連するコーデックスの全作業は、IDFの意見に沿って、以下のように変更や修正なしで採択されました (詳細はIDFオブザーバーレポートで後述します) :

1. 食用カゼイン製品規格の3.3項の編集上の修正 (CXS 290-195)
2. 電子証明書のペーパーレス化に関するガイダンス (汎用公的証明書の設計・製造・発行・使用に関するガイドライン改訂版、CXG 38-2001)

3. 食品添加物に関する一般規格 (GSFA) (CXS 192- 1995) の選択された乳製品カテゴリーへの追加食品添加物の添加 - 詳細は後述
4. 整合化 - すべての食品添加物のリストは、コーデックスの乳製品規格である「ブライン漬けチーズ」(CXS 208-1999)、「フレッシュチーズを含む未熟成チーズ」(CXS 221-2001)、「エバポレーションした脱脂乳と植物性脂肪のブレンド」(CXS 250-2006)、「粉末形態の脱脂乳と植物性脂肪のブレンド」(CXS 251-2006)、「加糖コンデンス脱脂乳と植物性脂肪のブレンド」(CXS 252-2006)、「カッターチーズ」(CXS 273-1968)、「クリームチーズ」(CXS 275-1973)、「エクストラハードすりおろしチーズ」(CXS 278-1978)の規格、及び「チーズの一般規格」(CXS 283-1978)の規格からGSFAに移されたものであり、それぞれの規格の食品添加物のセクションに食品添加物に関するコーデックス一般規格 (Codex General Standard for Food Additives) を参照する文章を追加。
5. 乳製品及び乳製品関連の食品カテゴリーの一部に含まれる甘味料に関する規定の改訂 (CXS 192-1995) - 詳細は後述。
6. 食品の非小売用容器の表示に関する新しいコーデックス一般規格
7. 栄養表示に関するガイドライン (CXG 2-1985) の付属書として含まれる容器前面の栄養表示に関する新しいコーデックス・ガイドライン) 及び、栄養表示に関するガイドライン (CXG 2-1985) のセクション5の結果的な修正を要求。
8. 食品由来の薬剤耐性 (AMR) を最小限に抑え、抑制するための実施規範 (CXC 61-2005) 、及び「食品由来の薬剤耐性の統合的なモニタリングと監視に関するガイドライン」の改訂と、AMRに関するコーデックス・タスクフォースの解散。
9. 推奨される分析及びサンプリング方法 (CXS 234-1999) における分析方法/性能基準、及び推奨される分析及びサンプリング方法 (CXS 234-1999) における分析方法/性能基準の修正 - 詳細は本報告書の後半を参照。
10. 発酵乳 (ケフィア) のコーデックス規格に影響を与える可能性のある酵母の規格開発に関するディスカッション・ペーパーの承認。

選挙: コーデックス委員会の第20代委員長には、英国食品基準局グローバルアフェアーズ部長のステーブ・ワーン (Steve Wearne) 氏が選出され、副委員長にはケニアのアラン・アゼゲレ (Allan Azegele) 氏、ニュージーランドのラジ・ラジャセカー (Raj Rajasekar) 氏、チリのディエゴ・ヴァレラ (Diego Varela) 氏が新たに選出されました。CAC44では、今回の総会終了後から以降の2回目の総会 (CAC46) 終了までの期間、以下の執行委員会メンバーを地理的に選出/再選出しました。

- アフリカ：タンザニア連合共和国 (再選)
- アジア：日本 (再選)
- ヨーロッパ：ドイツ (再選)
- ラテンアメリカ・カリブ地域：ウルグアイ (再選)
- 近東：イラン (イスラム共和国)

- 北アメリカ：カナダ
- 南 - 西太平洋：バヌアツ

コーデックス栄養・特殊用途食品部会 (CCNFSDU 42)

後期乳児用フォローアップフォーミュラ、「栄養成分を添加した幼児用飲料／製品」及び「幼児用飲料」の規格の窒素換算係数について、部会は、乳製品に特有の係数 6.38 への言及に加えて、これらの製品に 6.25 の係数を使用できることを意味する現在の脚注を維持することに同意している。この結果は IDF の意見と一致しています。文章は以下の通りです：

「この規格では、すぐに摂取可能な最終製品のタンパク質含有量の計算は、特定の製品に異なる換算係数を使用する科学的な正当性が示されない限り、 $N \times 6.25$ に基づいて行われべきである。この規格で設定されているタンパク質レベルは、窒素換算係数 6.25 に基づいている。参考までに、乳製品に関する他のコーデックス規格では、窒素からタンパク質への変換に適した特定の係数として 6.38 の値が使用されている。」

IDF は当初からこのプロセスに参加しており、WHO/FAO JEMNU パネルへの参加、各国代表団との連携、CCNFSDU への IDF 代表団への参加など、この成果の実現に貢献したすべての専門家に感謝します。

ニュースとコミュニケーション

IDF 酪農乳業イノベーション賞

IDF 会長は、10 月 13 日に開催された IDF フォーラムでの発表において、IDF 理事会が IDF 酪農乳業イノベーション賞の創設を承認したことを発表しました。第一回目の賞は、インドのニューデリーで開催される IDF WDS2022 で授与されます。この賞に関する詳細は、追ってお知らせします。

LEAP フェーズ 4

LEAP フェーズ 4 が承認され、2022 年～2024 年の期間をカバーすることになりました。IDF は引き続きこのパートナーシップを支援し、その活動に貢献していきます。

CNIEL ミルクツリー

CNIEL の好意により、[ミルクツリー](#)のフランス語版をご提供いただきました。このドキュメントが皆様にとって非常に有用なものとなるように、他の言語に翻訳して私たちと共有していただきたいと思います。

IDF デーリーリーダーズパネル 2021：“私たちは今、酪農乳業の未来を創らなければならない”

今年 10 月に開催された「IDF デーリーリーダーズパネル」では、4 人の国際的な CEO が酪農乳業事業の将来について議論しました。[続きを読む](#)

その他のニュース

[骨折予防における乳製品の重要性を示す新たな研究結果](#)

新しい研究「[施設入居要介護高齢者の股関節骨折及び転倒に及ぼす食事性カルシウム源及びタンパク質源の影響：クラスター無作為化対照比較試験 \(Dietary Sources of Calcium and Protein Reduce Hip Fractures and Falls in Institutionalized Older Adults:aCluster-Randomised Controlled Trial\)](#)」がブリティッシュ・メディカル・ジャーナル (British Medical Journal) に発表されました。

出版物

[アニュアルレポート 2020-2021](#)

IDF アニュアルレポート 2020-21 では、IDF の優れた科学的・技術的な活動を紹介するとともに、IDF の業界を代表した主張およびコミュニケーションの活動概要、酪農乳業の持続可能性に関する情報、新型コロナウイルス感染症のパンデミックへの IDF の対応などを紹介しています。

[「世界の酪農状況 2021」報告書](#)

本報告書は、継続的に変化する世界の牛乳乳製品市場の状況に関心を持つ意思決定者や酪農乳業セクターの関係者にとっての必読書です。

[IDF 「アニマルヘルスレポート」 2021](#)

IDF 「アニマルヘルスレポート」第 15 号は、持続可能な酪農生産における家畜の健康と福祉の重要性を説明し、情報と実践的な洞察を提供します。持続可能な開発と食料安全保障における家畜の健康と福祉の役割を探り、家畜の健康と福祉、そして生計を考慮した改善のための革新的なソリューションの例を示しています。

[ISO 24223 | IDF 253 チーズ - 物理的及び化学的試験のためのサンプル調製に関するガイダンス](#)

新しい IDF/ISO 規格は、フレッシュチーズ、(セミ) ソフトチーズ、(セミ) ハードチーズ、プロセスチーズ、ホエイチーズの機器法の適用による分析を含む物理的及び化学的分析のためのサンプル調製に関するガイダンスを提供します。

[IDF ファクトシート 019/2021 : IDF 生殖技術 : 人工授精](#)

この IDF 生殖技術ファクトシート (生殖技術に関する IDF ファクトシートシリーズの一部) では、酪農の持続可能性の一環としての生殖ホルモンの使用について検討しています。

[IDF ファクトシート 020/2021 : IDF 生殖技術 : 胚移植](#)

この IDF 生殖技術ファクトシート (生殖技術に関する IDF ファクトシートシリーズの一部) では、酪農の持続可能性に貢献できる技術として、胚移植の利用を検討しています。

今後のイベントと会議

IDF/ISO 分析ウィーク 2022 - 2022 年 4 月 25 日～28 日、ドイツ・コンスタンス

次回の IDF/ISO 分析ウィークは、国際酪農連盟 (IDF) と国際標準化機構 (ISO) の後援のもと、VDM - IDF ドイツ国内委員会 (Verband der Deutschen Milchwirtschaft) が主催し、2022 年 4 月 25 日～

28日にドイツのコンスタンスで開催されます。ご参加いただける方には、また直接お会いできることを楽しみにしています。ビジネスミーティングやシンポジウムへのバーチャル参加も可能です。

ウェブサイト [IDF/ISO 分析ウィーク \(idfisoanalyticalweek.com\)](http://idfisoanalyticalweek.com) を公開しました。ニュースレターにご登録いただくと、特にシンポジウムをはじめとする分析ウィークの最新情報の提供や、登録受付開始のお知らせをお送りします。また、ご要望に応じて、スポンサーシップや展示会パッケージも入手できます。

この機会に、2023年のIDF/ISO分析ウィークを開催するホスト国候補の国内委員会を歓迎したいと思います。

IDF ワールドデリーサミット 2022、2022年9月12日～15日、インド・ニューデリー

来年、2022年9月12日～15日にIDFワールドデリーサミットをIDFインドが主催することになりました。プロモーションビデオは[こちら](#)からご覧いただけます。

IDF 技術ウェビナーシリーズ

これまでにIDF技術ウェビナーにご参加いただいた皆様に感謝いたします。このウェビナーは大成功を収めており、私たちが直面している困難な状況において、世界の専門家が乳業科学の情報を交換し、共有するためのプラットフォームを提供するために役立っています。

IDF/ISO 合同ウェビナー「グローバルスタンダードの整合化の重要性」 - 12月8日 17:30 CET

このウェビナーでは、IDF/ISO規格の共同発行20周年を機に、国際的に整合化された規格の重要性を強調します。このウェビナーは、様々な立場（当局、乳業会社、第三者試験所）の規格ユーザーの証言を提供することで、IDF及びISOの標準化活動への参加と規格の利用を促進することを目的としています。

IDF 技術ウェビナーとバーチャルイベントをもう一度見る

[「世界学乳の日」ウェビナー](#)

2021年9月29日にIDF「世界学乳の日」のウェビナーが開催されました。ウェビナーをご覧になるには、上のリンクをクリックしてください。

スタッフ連絡先

キャロライン・エモンド (Caroline Emond) 氏、dg@fil-idf.org
オーレリー・デュボア (Aurélie Dubois) 氏、adubois@fil-idf.org
ローレンス・リッケン (Laurence Rycken) 氏、lrycken@fil-idf.org
マリア・サンチェス・マイナー (María Sánchez Mainar) 博士、msanchezmainar@fil-idf.org
アポリナ・フォス (Apolina Fos) 氏、afos@fil-idf.org
ファティーマ・アーメド (Fatima Ahmed,) 氏、fahmed@fil-idf.org

皆様のご意見をお聞かせ下さい！

コメントや提案は事務総長 dg@fil-idf.org までご送付下さい。

2) IDF 質問状の概要と結果

2021年9月～2022年1月に受け付けた IDF 質問状について、次の通り報告します。整理番号の付いた IDF 質問状には、大きく分けて「新規活動項目」と「(IDF 出版物の) 発行承認」があります。ここでは、各質問状についてご紹介することで、IDF がどのような課題に取り組み始めたかあるいは継続しているかをお知らせします。

① 新規活動項目

この期間の新規活動項目に係る質問状はありませんでした。

② 発行承認

1. 質問状 0321/SCMH

この質問状は、「食品に使用履歴のある微生物リスト」と題する第3版の改訂版である第4版案を IDF ブリテンとして出版しても良いか質問されています。第4版には JIDF から要望した *Bifidobacterium longum subsp. Longum* がリストに掲載されています。この質問状には、出版の承認を回答済みです。15か国が回答し、日本を含む13か国が承認したので、発行が承認されました(現時点では出版されていません)。

2. 質問状 0421/SCDST-SCNH

この質問状は、「乳の熱処理」と題する資料を IDF ブリテンとして出版しても良いか質問されています。この質問状には、出版の承認を回答済みです。現在、回答結果は公表されておりませんが、現在、担当の乳業科学・技術常設委員会が、提出された意見をもとに、資料の改訂中です。

3. 質問状 0521/SCAMC

この質問状は、0521/SCAMAC「乳、粉乳及びクリーム：脂肪含量の測定法－重量法 (ISO/DIS 23318|IDF249/2021) (Milk, dried milk products and cream - Determination of fat content - Gravimetric method)」と題する ISO-IDF 合同分析法規格の共同出版の発行承認を求めるものです。この質問状には、出版の承認を回答済みです。現在、回答結果は公表されておりません(現時点では出版されていません)。

4. 質問状 2021 年度世界の酪農情況

この質問状は、2018年、2019年、2020年の酪農乳業統計(生乳生産量、酪農家戸数、乳・乳製品の生産量・乳価、卸売価格、貿易量、消費量等の統計値)が質問されるとともに、酪農乳業の構造変化、価格動向、酪農乳業政策、消費動向、経済概況について簡単な説明が求められています。所定の様式に回答を記入し、IDF に提出しました。各国の回答等を取りまとめた IDF ブリテン 512(The World Dairy Situation 2021)が出版されました。

3) 国際会議の報告

① IDF グローバルデーリーカンファレンス 2021

2020 年は、COVID-19 のパンデミックの影響で、ワールドデーリーサミット 2020 は中止となりましたが、2021 年は当初予定されていたチリでの開催から、場所をデンマークのコペンハーゲンに移し、名称も「IDF グローバルデーリーカンファレンス 2021」に変更され、現地+オンライン参加のハイブリッド形式にて 2 年ぶりに開催されました。

日時： 2021 年 10 月 13 日（水）～15 日（金）

場所： コペンハーゲン（デンマーク） ※現地+オンライン参加のハイブリッド形式

会場： アクセルボルグ/NIMB

テーマ： A changing climate for dairy 「（仮訳）酪農乳業を取り巻く変化する環境・情勢」

参加者数： 347 名（現地 166 名、オンライン 181 名）

J ミルク国際委員会からの参加者： 21 名（全てオンライン）

プログラム日程：

- | | |
|--------------|---|
| 10 月 13 日（水） | 開会式「世界の酪農乳業見通し」
デーリーリーダーズパネル
IDF フォーラム
ウェルカムパーティー |
| 10 月 14 日（木） | セッション① 持続可能な食事
セッション② 処理加工と技術
セッション③ 酪農
ガラディナー・IDF 賞等の表彰 |
| 10 月 15 日（金） | セッション① マーケティング
セッション② 食品安全
セッション③ 政策・経済 |

各プログラムの概要：

本誌には、初日のイベントと、2 日目の IDF 賞等の表彰について概要を記載し、2 日目以降の各セッション概要については、国際会議出席報告書にて別途記載いたします。

開会式「世界の酪農乳業見通し」

10 月 13 日（水）13:00（現地時間）から、「世界の酪農乳業見通し」と題して開会式が行われた。まず主催者を代表してデンマーク酪農委員会の 2 名から歓迎挨拶があった。続いて IDF 会長が挨拶した後、文化的休憩としてアンデルセン童話が紹介された。その後、デンマーク食料・農業・漁業大臣がデンマークの酪農乳業セクターを紹介し、EU 委員による歓迎スピーチが行われた。

主催者挨拶

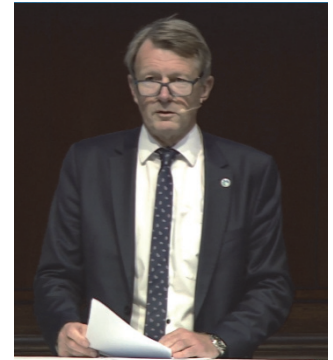
ヨーン・ハルド・クリステンセン氏（デンマーク酪農委員会 CEO、IDF デンマーク国内委員会委員長）

会場およびオンラインからご出席いただいた皆様にお会いできて嬉しい。「酪農乳業を取り巻く変化する環境・情勢（Changing Climate for Dairy）」というテーマは、適切な表現だと思う。この変化は、酪農乳業界に大きな影響を与えるだろう。

IDF、デンマーク、そして世界中の皆様の協力で開催できたことに感謝したい。現在の新型コロナの状況においても準備ができて幸運だったが、世界の他の地域ではまだそのようではない。全世界の状況の改善を切に願う。

デンマークが IDF 年次イベントを開催するのは初めてではなく、前回は 1998 年だった。当時を現在と比べると、おそらくメールはあったが、まだ新しいものだった。スマートフォンはなかったし、気候や持続可能性に関する議論もほとんどなかった。会議は対面で行っていた。小さなウイルスが全世界を遮断してしまうことなど、誰も想像していなかった。

さまざまなことが変化しており、これからも変化していく。この 3 日間は、こうした変化や課題にどう対処すべきかについて、多くの講演が予定されている。



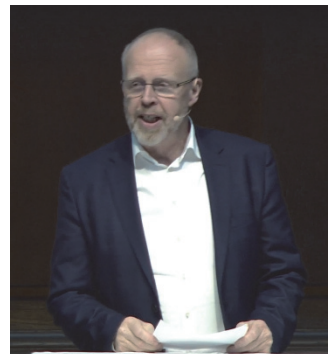
スティーン・ノルガード・マドセン氏（デンマーク酪農委員会会長）

人類の誕生以来、牛乳乳製品は基本的に必要なものだった。早い段階で貿易を始めていた。チーズやバターが発明されたのもそのためだろう。はじめは近距離の取引だったが、輸送が向上するにつれて徐々に距離が長くなり、現在のように世界的に取引されるようになった。

そして 1903 年、先見の明のある酪農家が集まって製品基準の改善を議論し、貿易を促進するための組織の必要性を認識した。これが、IDF の創設者たちである。それ以来、IDF では膨大な活動が行われてきた。今日、

1200 人の国際的な専門家とその伝統を継承し、酪農乳業界のすべての人々に利益をもたらしている。

輸出国としてデンマークは常に IDF の活動に熱心に取り組み、世界 100 カ国以上と取引している。国際基準の価値を知るだけでなく、国内も IDF 活動から恩恵を受けている。例えば、農業と食品安全の分野において。コーデックス委員会への IDF の貢献は、私たち全員にとって大きな価値がある。私は酪農家であり、収入は農場での効率的な生産と生乳取引価格の 2 つに依存している。そのため、農場経営のセッションで最新情報を聞くことを楽しみにしている。



はじめに

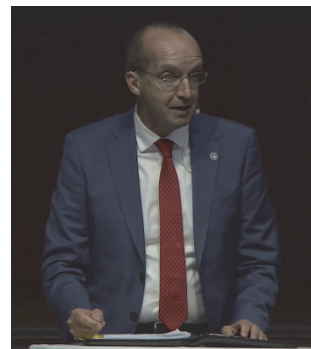
ピエルクリスチアーノ・ブラザーレ氏（IDF 会長）

世界中からコペンハーゲンに集まった多くの皆さんと再会できて嬉しい。新型コロナ禍の影響で、

私たちの生活や活動に影響が出た。昨年はケープタウンで会議ができなかった。今年チリで予定されていたワールドデーリーサミットは2025年に同国で開催することになった。

IDFを代表して、デンマーク政府、デンマーク酪農委員会、そしてこのイベントの開催に関わった人々に感謝したい。ご存知のように、IDFは1200人以上の日々の専門家で構成されており、世界の酪農乳業セクターの生産的な事業に役立つよう、科学的・技術的な支援を提供するために活動している。私たちが協力し合うことは不可欠である。

日曜日にビジネスミーティングが始まった。これからの3日間は、知識を共有し、必要な議論を生み出していく特別講演会である。本日は、デーリーリーダーズパネルから始まり、最後にIDFフォーラムでIDFのインパクトのある活動の概要を共有したい。



文化的休憩

スージー・ウォルド氏 (デンマークの女優)

デンマークは、おとぎ話で有名な作家のハンス・クリスチャン・アンデルセンの出身国である。デンマークの文化について紹介するため、国民的女優のスージー・ウォルド氏がアンデルセンの物語を披露した。アンデルセンは、子供向けのおとぎ話を作る際に、大人である父や母にも聞いてもらうことを常に念頭に置いていた。今回のウォルド氏の役割も同じであり、アンデルセンの「エンドウ豆の上に寝たお姫さま」を感受性の高さや率直な意見を好むデンマーク人の特徴を説明した物語として、そして「お茶のポット」を変化する世界に関する物語として紹介した。また、ウォルド氏のオリジナルの「うわさ話」を、一つの騒ぎから始まるうわさ話は真実を伝えているといった物語として披露した。



デンマークの酪農乳業セクターの紹介 (ビデオメッセージ)

ラスマス・プレン氏 (デンマーク食料・農業・漁業大臣)

デンマークの酪農乳業セクターは、協同組合の力強く誇り高い伝統の上に成り立っている。その設立は140年以上前まで遡る。小さなことでも農家が協力し、対話と協力に基づいて酪農協同組合を設立してきた。この伝統は、デンマークの酪農乳業セクターの将来にとっても不可欠である。私たちは、デンマークとしてもまた国際的にも、酪農乳業セクターの大きな課題に直面している。グリーンアジェンダを実現するという大きな責任を負っている。これは私たちの共通の責任である。私たちは行動し、成功しなければならない。

食料セクターおよび酪農乳業セクターのグリーン移行は、共同の努力によってのみ実現できる。これを達成するためのデンマーク政府のアプローチは2つある。第一に、消費者が気候変動に配慮した正しい選択をするように刺激し、支援する必要がある。第二に、食料セクターおよび酪農乳業セ



クターが持続可能で気候にやさしい方法で生産するように鼓舞し、支援する必要がある。

消費者が正しく選択できるように、デンマーク政府は、7つの新しい公式の食生活指針を発表した。要約すると、この食生活指針では、野菜を多く食べ、肉を少なくする必要があるとしている。ただし、牛乳やヨーグルト、チーズなどの乳製品が禁止されているわけではない。牛乳乳製品は、その栄養価の高さから、この公式の食生活指針に含まれている。

しかし、人々の食生活を変えるだけでは不十分である。食卓に届かない食料を無視することはできない。毎年、40万トンもの食料が廃棄されている。これは、消費者のことを考えると、私たちが取り組まなければならない重要な問題である。同時に、業界内での食料廃棄を抑えるためにも、イノベーションを起こさなければならない。デンマークの食料分野では、酪農乳業界が食品廃棄物の最大のシェアを占めており、牛乳乳製品が、消費者に届く前に廃棄されている。そのため、私たちは牛乳乳製品の生産方法を変化させなければならない。

温室効果ガスの排出量を削減するためにも、すべての食料の生産方法を変化させなければならない。このことは、デンマーク政府の持続可能な食料セクターおよび酪農乳業セクターへのアプローチの鍵となっている。デンマークでは、気候変動の排出量を全体で70%削減するという野心的な目標を掲げている。今月初めには、農業部門からの貢献について、政治的にも歴史的にも幅広い合意に達した。これは、2030年までに農業部門からの気候変動排出量を55~65%削減することを目指す野心的な合意である。

この合意では、研究やイノベーションへの投資が優先されているが、酪農乳業セクターに関連した例を挙げてみたい。牛がメタンを排出するという事実を変えることは困難である。しかし、牛からのメタン排出を削減するためには、あらゆるオプションやインプットをテストしなければならない。一つの選択肢は、可能性の大きな飼料添加物に注目することである。現在進行中の研究プロジェクトでは、牛からのメタン排出量を最大40%削減できる可能性が示されている。

一般的に、気候変動への影響を考慮した場合、農業分野や酪農分野には大きな改善の可能性がある。この可能性を実現するために、デンマーク政府は、食料セクターおよび酪農乳業セクターが持続可能で気候変動に配慮した方法で生産できるように刺激し、支援していく。食料セクターおよび酪農乳業セクターのグリーン移行は容易ではない。しかし、適切な協力とイノベーションがあれば、140年前のように、協力と対話によって力強くなり、勝利を得ることができるだろう。

歓迎スピーチ（ビデオメッセージ）

ステラ・キリアキダス氏（EU委員会委員）

「酪農乳業を取り巻く変化する環境・情勢」とは、時宜を得たものであり、今後の課題を理解していることを明確に示している。新型コロナの世界的大流行により、私たちは、健康、サプライチェーン、消費パターン、そして地球の限界の相互関係を痛感した。また、フードシステムを変革し、持続可能なものにすることが急務であることも浮き彫りになった。

欧州グリーンディールの中心となる「ファーム・トゥー・フォーク（Farm to Fork）戦略」は、このニーズに正面から取り組んでいる。この戦略は、食の安全と安心を確保し



ながら、迅速で健康的、かつ環境に優しい食のシステムを構築することを目的としている。食料の生産、流通、消費に関しては、もはや「いつも通り」という選択肢はない。EUの農業は、グリーンディールを実現するために、持続可能性への移行を加速する必要がある。その意味で、酪農乳業セクターはEU農業にとって不可欠な存在である。だからこそ、環境への影響を緩和し、より広く、持続可能な欧州のフードシステムを実現するための皆様の取り組みを歓迎する。

Farm to Fork 戦略は、動物の健康と福祉を守りつつ、畜産を含む一次産業をより持続可能なものにするということでもある。EUのいくつかの国では、特徴的な酪農場の割合や乳牛の頭数、乳量の増加など、牛乳生産に大きな変化が見られる。その結果、乳牛の寿命が短くなり、輸送に適さなくなるなど、動物福祉に悪影響を及ぼしている。農場から食卓まで、私たちは政治的な優先事項として、2023年までにEUの動物福祉法を改正し、その範囲を広げ、最新の科学的証拠と整合させることで、動物福祉の基準をさらに高めようとしている。乳牛の福祉に関する欧州食品安全機関の科学的意見は、立法プロセスに反映される。乳牛の福祉要件を提案する前に、私たちはもちろん、国際的な影響を含め、さまざまな政策オプションの社会的、環境的、経済的な影響を評価する。そして、これまでと同様に、私たちは皆様の声に耳を傾け、まもなくオープンなパブリックコンサルテーションを開始し、その後、2021年12月にオンラインでステークホルダー会議を開催する予定である。このプロセスにぜひ参加していただきたい。

私たちが対応しなければならないもうひとつの気候の変化、それは消費者からの風当たりである。ヨーロッパの人々は、環境、健康、社会、倫理的な問題をますます意識するようになっている。それに加えて、これまで以上に高品質な食品を求めている。つまり、持続可能な移行は、経済的にも大きな利益をもたらす。消費者の需要に応えることで、新たな経済的機会が生まれ、欧州の食品が食品の持続可能性におけるグローバルスタンダードとなることに貢献する。酪農乳業セクターは、すでに始まっているその移行の原動力となり得る。このことを念頭に置いて、皆様の会議が成功することを祈りたい。

デーリーリーダーズパネル

10月13日(水)13:40(現地時間)から、デーリーリーダーズパネルが行われた。

前半の部では、世界の乳業会社トップによるスピーチとパネルディスカッションが行われ、各社の最近の動向や、直近の話題である酪農乳業の持続可能性について、気候変動や植物性食品への対応など、それぞれの考えを述べた。

後半の部では、まず食料システムサミットの振り返りについてIDF前会長ブライアンズ氏から講演が行われ、続いてブライアン・リンゼー氏より、酪農乳業の持続可能性の取り組みを数値的に評価する手法として、デーリーサステナビリティフレームワーク(DSF)の現在の活動状況について説明された。

業界リーダーによるスピーチとパネルディスカッション

登壇者 1：ペダー・ツボルグ氏（アーラフーズ社 CEO、デンマーク）※現地参加

ツボルグ氏は 2005 年に 42 歳で CEO に就任。アーラフーズ社はデンマークに本社を置く酪農家たちの協同組合による企業であり、北欧を中心に、英国やドイツでも生産を行っている。年間売上は約 100 億ユーロ。

「酪農乳業の未来を心から信じている。世界の人口は 100 億人に達することが見込まれているが、牛乳乳製品は持続可能な解決策となるスーパーフードである。そして酪農乳業は地球にとっても持続可能なものとする必要があり、その課題の 85～90%を酪農家が抱えている。今必要なのは資金であり、資源や労力の 85%を酪農家に投じる必要がある。」



登壇者 2：フィリップ・パラージ氏（ラクタリス社 CEO、フランス）※現地参加

パラージ氏は 2020 年にドイツ最大の小売グループのメトロ社より CEO に就任。ラクタリス社は、世界 52 カ国において従業員数 85,000 人、年間売上は 240 億 US ドルに及ぶ。

「ラクタリス社の使命の一つとして、地域のユニークな多様性の維持に貢献したいと考えており、地域の伝統的な乳製品を市場展開している。最近、植物性食品を単純に推進するようなメッセージが多く発信されているが、植物性食品は牛乳乳製品の代替栄養ではなく、どちらもバランスのとれた食生活の中でそれぞれ役割を担っている。誤解を招くような主張は避け、消費者が十分な情報を得た上で選択できるようにする必要がある。」



登壇者 3：ミンファン・ルー氏（中国蒙牛乳業社 CEO）※リモート参加

ルー氏は多国籍企業でのキャリアを積み、2016 年に CEO に就任。蒙牛乳業は政府系の伊利グループと並び、内蒙古に本社を置く中国の 2 大メーカー。

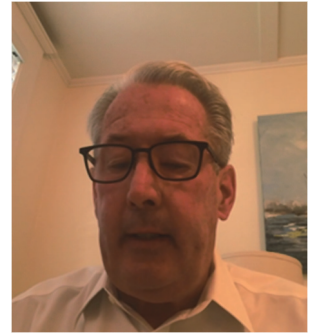
「中国ではコロナ禍においても、コロナ以前よりも急速に酪農乳業が発展している。中国政府は酪農乳業の成長戦略を立てており、その結果、世界の乳業企業売上トップ 10 に蒙牛を含めて 2 社ランクインした。栄養面では、乳を原料として多様な栄養要求に応える、「テーラーメイドの栄養 (tailored Nutrition)」の提供が重要と考えている。気候変動に対しては、サプライチェーン全体で取り組みを進めているが、砂漠の真ん中に 1 億本近い植林をして、200 平方キロ近い土地を緑地化し、酪農場を建設している。牛のメタン排出についても、飼料改良、排泄物処理、電力への転換など、革新的な技術開発を行っている。中国はわずか 20 年で酪農乳業を世界レベルに発展させてきた。これからの地球温暖化に対する対策も、短い期間で達成できるものと楽観的に考えている。」



登壇者 4：リック・スミス氏（DFA 社社長兼 CEO、アメリカ）※リモート参加

スミス氏は 2006 年より CEO に就任。1988～2005 年にはニューヨークを拠点とする酪農組合系企業

であるシラキューズ社の CEO を務めた。デーリー・ファーマーズ・オブ・アメリカ (DFA) 社は、従業員数約 20,000 人、年間売上 179 億 US ドルのアメリカ最大の酪農組合系企業である。集乳量は約 2,200 万トンで 1 組合として世界最大とのこと。酪農家と地域コミュニティとの繋がりが大切であることを、企業スローガンに掲げている (Farmer Owned. Community Loved.)。



「酪農乳業をネットゼロにするには、酪農家が鍵を握っている。コストがかかることであり、規模や構造が多様であることから、その道筋には困難がある。しかし酪農乳業には大きなチャンスがあり、革新を続けて、消費者が求めるものを提供する必要がある。そのために地域のコミュニティとのつながりを大切に、そのコミュニティを支援する必要がある。DFA は、将来の成長の柱として、持続可能性 (Sustainability)、革新 (Innovation)、地域コミュニティ (Community) を挙げている。自分たちの行動や価値を理解してもらうためにコミュニティとの関係を強めることがとても大切である。困難な人々のために立ち上がり、地域社会のために何ができるのか、もっとうまく説明できればと思っている。」

パネルディスカッション

モデレーター：ピエール・クリスティアーノ・ブラザーレ氏 (IDF 会長、イタリア)

R. S. ソディ氏 (アムール社社長、インド)



(※上写真の一番左がブラザーレ氏、左から 4 番目がソディ氏)

・健康的な食事における牛乳乳製品の役割、そしてこれらが持続可能な方法で生産されていることが、消費者や政策決定者に認識されるようにするにはどうしたらよいか。

ツボルグ氏：バリューチェーンを通じた科学的な取り組みが必要で、特に酪農家に焦点を当てるべきだ。消費者が何を考え、どこに向かおうとしているかを知ることが重要だ。気候変動という観点から、消費者に合わせたマーケティングを行う必要がある。

パラジ氏：気候変動の問題が西欧諸国の視点からのみ語られ、世界の多くの地域、特に途上国で酪農乳業が人々を養う重要な役割を果たしていることが忘れられている。我々が実際に貢献していることをもっと示す必要がある。

ルー氏：ステークホルダー達が協力し、私たちが成し遂げてきたことを例をあげて消費者に伝えることが重要で、そうすれば持続可能な方法で生産された乳製品にプレミアム価格を支払うことに賛同ももらえると思う。若い人に向けてはソーシャルメディアの活用も有効だ。

スミス氏：透明性を高めてコミュニケーションをとることで、牛乳乳製品への信頼性を高めること

ができる。しかしアメリカでも、ほとんどの消費者は農場で行われていることを理解していない、というより何も知らない。酪農を知らない人々のところへ出かけて伝えるべきだ。

ツボルグ氏：政治家たちも正しく理解していない。政策決定者へのコミュニケーションも必要だ。

・コロナ禍で直面した最大の課題と、その対応策は？

ツボルグ氏：デンマークはヨーロッパで最初に国境を閉鎖した国で、最初の2～3週間はサプライチェーンが本当に混乱した。しかしその後、家庭での需要が実際は上回っていることがわかり、ビジネスの手段があった。ただし企業の組織体制は変えざるを得なかった。

パラージ氏：すべての国のすべての場所が封鎖されても、牛はミルクを出し続け、我々は生産を続けた。このことは誇りに思うべきだ。私は最年少のリーダーであったが、周囲の部下や仲間が非常に勇敢であったことに感銘を受けた。遠く離れた場所でも、近くにいるように関係を作ることができた。

ルー氏：生産と消費のミスマッチが、最大の課題だった。この需要と供給のミスマッチを一致させるため、サプライチェーンを迅速に調整しなくてはいけないが、難しかった。あらゆる需要に柔軟に対応するため、デジタルトランスフォーメーションを進めることにした。

スミス氏：牛はパンデミックに関するメールを受け取っていない（笑）、つまり我々は決して生産を止めなかった。外食の需要はなくなったが、スーパーマーケットの需要は増えた。ある場所で失っても、別の場所で得ることができるが、格差や地域差は表れている。アメリカのワクチン接種率については、連邦政府の対応が遅れている。健全な状態への回復には、まだ道のりは長い。

・酪農家によるオンライン販売（ファーマーズマーケット）は今後も続くか。

パラージ氏：オンライン販売は地域に密接したマーケットを成長させると信じている。一例として、クロアチアでオンラインショップを開設し、消費者に直接販売している。

ルー氏：小売業界の変化という意味では、例えばオンラインの冷蔵品は5%から30%に上昇している。

スミス氏：アメリカでは酪農家によるオンライン販売が存在感を増すとは思えない。品質や安全性に疑問がある。

ツボルグ氏：消費者のニーズや期待に応えるには、酪農家が積極的にマーケティングに参加し、バリューチェーン全体を理解し、透明性を高める必要があると思う。農場を見たこともない人たちに、オンラインやSNSで酪農家を紹介する必要がある。

・コロナ禍において、消費者の期待にどのように応えるか。

パラージ氏：パンデミックにより、消費者は単に製品（モノ）を買うだけではなく、なぜそれを作っているのか（コト）にこだわるようになってきている。企業が何を、なぜ提案するのかが要求されている。

ルー氏：消費者は忍耐力が低下しており、ホームデリバリーなどで早く製品を手にしたと考えている。もう一つは企業の社会的責任に関心をもっており、企業が社会に対してどのように対応し、支援しているかを示す必要がある。情報の提供も重要である。

スミス氏：消費者は企業がサステナビリティの観点から何を話すのかを期待していると思う。気候変動だけでなく、アニマルケア、労働安全、職場環境など、あらゆることが対象である。彼らは懐疑的な目をもっており、説明して終わりではなく、反響を確かめて語り方を進化させる必要がある。ツボルグ氏：消費者が、企業について責任ある良き地球市民であることを期待する傾向は、年々高まってきている。気候問題はその傾向をさらに強め、非常に明確である。コロナ禍については様子を見る必要があるが、そろそろ「余談」にして、もっと大きなトレンドに意識を戻したい。

・植物性製品やイミテーション製品（細胞ベースの製品：培養のことと思われる）についてどのような戦略をもっているか。

ツボルグ氏：植物性製品もイミテーション製品もそれぞれの居場所があり、最終的には消費者がどのようにこれらを受け入れるかにかかっている。業界としてもこれらを受け入れた上で、ビジネスとの組み合わせを考えるべきだ。

パラージ氏：植物性製品は完全に乳製品の代替はできないし、対立するものではない。理論を開発し続けるべきだ。

ルー氏：中国は牛乳も植物性飲料も昔から飲んでいる。イミテーション製品についてはポジティブに受け止めている。我々はより良いイノベーションを続け、消費者に対してさらに製品の質の向上に努めるべきだ。

スミス氏：我々は本業を推進しながらも、消費者が求めるものを提供しなくてはならない。植物性飲料を乳飲料と同じ設備で製造することになるだろう。市場を無視すれば、我々はもっと不利になるだろう。このような状況の中、我々が役割を果たす場所があると考え、本物の乳製品の良さを伝えることが重要だ。

・植物性製品については、永続的な変化と考えるか、一時の流行と考えるか。また 10 億ユーロを投資するとすれば、乳製品か、植物性製品か。

ツボルグ氏：我々は乳業会社だから答えは簡単だ。ただし植物性製品も含めて消費者が好むものを理解し、革新のために足を踏み入れようとしている。しかし酪農家の協同組合の使命として、他の領域にお金を使うのは自殺行為だろう。

パラージ氏：ラクタリスも目的地は酪農乳業で、この方向に進む。しかし答えは単なるイエスカノーではなく、様々な方向性が考えられる。カナダではオーツ麦入りのブレンドミルクがあり、フランスでも同様のものが出ている。90%は乳製品だが、需要があれば他の領域を手掛けることが必要だ。

ルー氏：10 億ユーロを投資するなら、乳製品の付加価値をより高めるために投資する。やはり乳製品に集中する。

スミス氏：植物性製品が一時的のものかどうかはわからないが、必ずしも主流になるとは思わない。我々は乳の栄養に関して正当で説得力のあるストーリーがある。どのように地球を守り、動物を守り、労働者を守っているかについて、説得力のあるストーリーがあれば、イミテーション製品や植物性製品よりも有利だと思う。

・今後、酪農乳業セクターは、一言でいうとどのように発展していくか？

パラージ氏：ヨーロッパでは安定し、アジア、インド、アフリカでは大きく成長し、世界全体では成長する。

ツボルグ氏：酪農乳業セクターは再び、消費者が驚くような自己改革を続けると信じている。

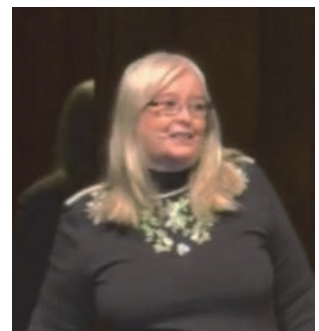
ルー氏：成長し、持続し、そしてイノベーションを起こす。

スミス氏：我々は成長産業である。人口が増加すれば乳製品が求められる。世界中の消費者とともに成長できる業界にいる。目の前に大きなチャンスがある。そう、チャレンジだ！

国連食料システムサミットを振り返って (Take-aways from the UN WFSS)

ジュディス・プライアンス博士 (IDF 食料システムサミット特別作業部会委員長、デーリーUK CEO)

食料システムサミットは、素晴らしいイベントだったし、オンライン開催で多くの参加者を集めたが、その成功を現時点で判断することはできない。目標を達成できたかどうかを見ていく必要がある。各国首脳の話では、主要テーマとして、学校給食や栄養、すべての子どもたちへの健康教育に関する行動について話があった。学校給食は今や世界最大の社会的セーフティネットになっている。また、子どもたちが成長したとき、生産的な社会人となるためにも重要である。



食料廃棄物も、重要である。多くの国では、食料廃棄物とは消費者がゴミ箱に入れた食品を意味している。しかし、食料廃棄物とは、土に埋まったままの植物や、生き延びられない動物も意味し、消費者には届いていない食料も含む。消費者側も非常に重要であるが、消費者の手に渡る前に食料が失われてしまうという問題にも取り組む必要がある。そして、健康的な食生活、子どもたちのためのフードシステムなどは、世界の最も貧しい地域の課題となっている。アグロエコロジーは再生可能な農業とともに重要なテーマだった。ケニアの首脳は、子どもの栄養には畜産物が重要であると強調していた。サミットの中で畜産の役割が認識されたことは、私たちにとって重要なことだった。

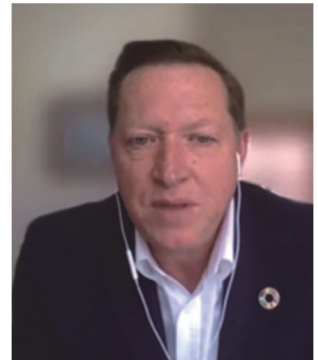
事務総長は、毎年ハイレベル政治フォーラムに報告書を提出し、今後 2030 年までの間、2 年ごとにコミットメントや行動を実行したかどうかを問う会議を開催すると約束した。サミットが本当に人々の行動を加速させることができたかどうかをこれから見ていきたい。

次のステップとして、IDF は IDF 食料システムサミット特別作業部会を継続していくことを決定した。なぜなら、もし IDF や GDP などが議論に参加していなかったら、バーチャル会議や出版物によって人々に乳製品に関する事実を伝え、正しくない部分を指摘していなかったら、酪農乳業は今よりもずっと悪い状況になっていただろう。私は、サミットやプレサミットは、あくまでもスタート地点に過ぎないと考えている。このサミットで行われたすべてのコミットメントは、COP26、生物多様性、国家計画、人権宣言、非伝染性疾患宣言などとも一貫性がなければならず、互いに適合しているべきだからだ。国レベルで食料システムサミットにまだ参加されていない方は、今からでも遅くはない。政府に相談したり、地域で何が起きているのか、サミットに何を反映させているのかを確認したりする必要がある。なぜなら、政府が約束したことは、みなさんの活動に影響を与え

るからだ。

デーリーサステナビリティフレームワークに関する最新情報

ブライアン・リンゼー氏（デーリーサステナビリティフレームワーク・ ディレクター、英国）※リモート参加



デーリーサステナビリティフレームワーク (DSF) は 2013 年に設立された、酪農乳業の持続可能に向けた活動における世界レベルで包括的な目標設定と、連携と情報共有が可能な枠組みを提供するために設立された非営利組織である。この枠組みにより、持続可能性への取り組みについて数値的に管理することが可能である。

講演の最初に、DSF の設立や組織運営に関係する組織が紹介された。この他に、実際のデータを提供する協会団体や乳業会社など約 40 の会員があり、それぞれが関係する酪農組織を数えると世界で 800 以上となる。

DSF では、経済、社会、環境の 3 つの柱をカバーする、11 項目の持続可能性の評価項目を設定し、14 個の指標を用いて評価する。各会員は、11 項目の中から優先項目（マテリアリティ）を決めて改善の取り組みを行い、毎年の進捗状況を DSF に報告する。

2020 年の DSF への参加状況は、生乳生産量は世界の 30%、流通生乳量は世界の 48.5% をカバーし、乳牛頭数は 4430 万頭、酪農場は 230 万、加工場数は 3037 であり、2020 年には新たな会員の加入により 970 万 KL の生乳量が増えた。この割合が増えれば増えるほど、持続可能性に対する取り組みの現状をより正確に把握でき、酪農乳業が目指すストーリーをより説得力をもって世の中に伝えることができる。優先項目では、2018 年から 2020 年にかけて、アニマルケア、生物多様性、温室効果ガス排出が上位にあり、時間経過とともに変化している。

報告書は 2019 年には 2 ページだったが、2020 年はすでに 6 ページを超えている。このような報告データを用いて、我々は数値的な根拠をもってストーリーを構築できる。また、毎月ウェビナーを開催したり、会員が集まって特定のトピックについて話し合う、コミュニティオブインタレストの会合など、情報を共有する機会を設けている。

今年 9 月 22 日には、「酪農乳業ネットゼロへの道筋」という気候変動への取り組みが、GDP や IDF などの国際組織の共同活動として公式にスタートした。DSF は国連食糧農業機関 (FAO) の GLEAM (グリーン) という算出モデルを利用してこの活動に対して報告を行う予定だが、他の最新の科学的算出モデルを取り入れられないか、IDF のライフサイクルアセスメント (LCA) のアクションチームで検討している。

DSF は欧米だけではなく、新興経済圏にも貢献できるように、様々な国際組織と協力して世界各地で活動している。世界のどの地域でも我々のモデルが適応可能であることを確認するため、世界規模での取り組みを進めており、2022 年に報告書を提出する予定だ。今後、COP26 など様々な場面で DSF のデータが活用されることで、酪農乳業が持続可能な産業であることを示していきたい。DSF に加入していない方々は、是非参加してほしい！

IDF フォーラム

IDF フォーラムでは、IDF 本部からこの一年の IDF 活動に関して報告が行われた。

IDF 会長ブラザーレ氏が、今年度は IDF 戦略の見直し作業、組織の目的や使命との関連性、GDP などとの共同取り組みである「酪農乳業ネットゼロへの道筋」の重要性を説明した。

次に、IDF 事務総長エモンド氏が、本部スタッフやコミュニケーション活動（ウェブサイトリニューアル、出版物など）について説明した。

さらに、IDF 科学・計画調整委員会委員長ジョンカー氏が、この一年の成果を紹介し、今後の1年間の4つの優先項目と11の新規活動項目について説明した。



(※写真左：エモンド氏、中：ジョンカー氏、右：ブラザーレ氏)

明るい未来のある活動的なセクター

ピエルクリスチアーノ・ブラザーレ氏 (IDF 会長)

IDF は 2020 年に新しい会則を採択し、細則を改正した。2021 年には、2020 年～2025 年 IDF 戦略見直し作業に注力した。また、SPCC との緊密な連携のもと、戦略行動計画を策定した。IDF 戦略見直しでは、次の4つの戦略必須項目を設定した。

- ① 酪農乳業バリューチェーンのために成長可能な環境を確保するための基準設定と科学的根拠に基づく政策策定に貢献する。
- ② 国際的な基準や規制の実施を促進し、酪農乳業チェーンの関係者が安全で持続可能な栄養価の高い牛乳乳製品を提供できるように支援するための、手引き、ガイドラインおよび方法論を開発する。
- ③ 健康的な食生活における牛乳乳製品の役割りと持続可能な方法で生産されているという科学的根拠に基づく情報の主張。また、経済環境や動物福祉の観点からも、持続可能なフードシステムを目指し、国連「持続可能な開発目標」に貢献する。
- ④ 世界の酪農乳業に関する専門知識の国際的なハブとしての地位を強化する。

「IDF 戦略の家」は、私たちの価値観に基づいた新しい戦略の家である。測定可能、協調的、外部的かつ長期的に確立された、誠実さ、関与などの価値観がある。

IDF の使命は、科学的根拠に基づく酪農乳業の専門知識や洞察を収集、維持、管理、共有し、国内および国際レベルでの政策決定や基準設定に役立てることで、世界の酪農乳業セクターを強化することである。

IDF の目的は、安全で栄養価が高く、持続可能な牛乳乳製品で世界に栄養を提供するために、世界の酪農乳業セクターを結びつけ、力を与えることである。

さきほどの戦略必須項目は、このセクターと組織としての IDF に向けたものである。

国連食料システムサミットの前日に立ち上げが行われた、「酪農乳業ネットゼロへの道筋」の取り組みは重要であり、世界の酪農乳業セクターがデーリーロッテルダム宣言に基づいて行動し、気候変動対策に変化をもたらす機会を提供している。

酪農乳業は明確に、国連「持続可能な開発目標」に貢献し、すべての人に質の高い栄養を確保する持続可能なフードシステムに貢献している。世界の酪農乳業セクターは、デーリーロッテルダム宣言を行い、持続可能性に取り組んでいる。私たちは行動はしているが、より早い行動が必要である。

「酪農乳業ネットゼロの道筋」では、今後 30 年間で温室効果ガスの排出量を削減することで、気候変動対策を加速させるという野心がある。世界の酪農乳業セクターによって推進され、専門家、連携組織、科学研究機関などによって支援される。

皆様の組織がこの取り組みに賛同するには、温室効果ガス削減のための直接的な行動をとること、またはその基本方針を支持し推進することの 2 つの方法がある。

IDF : 現代的で強靱な組織

キャロライン・エモンド氏 (IDF 事務総長)

この一年は、デジタル、新しい環境、新しい仕事のやり方にも適応しなければならなかった。今回の会議がその一例であるが、コミュニケーションやソーシャルメディアにも力を入れている。このように、私たちには強力な専門知識と献身的な IDF チーム、そして健全な財務状況があり、この様々な課題や機会に対応できると考えている。このような活動は一人ではできない。ここで IDF 本部チームを紹介しておきたい。
















IDF TEAM

Contact us if you need further information.

Follow us on social media.

Subscribe to IDF World.



 <p>Ms. Caroline Emond DIRECTOR GENERAL</p> 	 <p>Ms. Laurence Rycken SCIENCE & STANDARDS PROGRAMME MANAGER</p> 	 <p>Dr. María Sánchez Mainar SCIENCE & STANDARDS PROGRAMME MANAGER</p> 	 <p>Ms. Apolína Fos OFFICE AND MEMBERSHIP MANAGER</p> 
 <p>Ms. Fatima Ahmed COMMUNICATIONS OFFICER</p> 	 <p>Ms. Aurélie Dubois-Lozier SCIENCE & STANDARDS PROGRAMME MANAGER</p> 		

コミュニケーション・アップデートは、先ほど述べたように、情報を共有することの重要性を示し、認知度を高め、関与を促進する。そのために、私たちはコミュニケーションチームを設置している。この2、3カ月の間に、非常にダイナミックに、ブランディングやビジュアルイメージの構築に取り組んできたことにお気づきだろうか。

4月にはウェブサイトを更新した。この新しいウェブサイトでは、より多くの情報を提供しており、ユーザーの皆様により親しみを持っていただける。

「酪農の持続可能性見通し」に関する新しいセクションがあり、7月に開催された国連食料システムサミットの特別号も掲載してある。

「学乳の知識ハブ」は、学校給食に関する専門知識を共有するためのツールである。

生産的な専門家コミュニティ

ジェイミー・ジョンカー氏 (IDF 科学・計画調整委員会委員長)

科学・計画調整委員会 (SPCC) が IDF の組織の中でどのような位置づけにあるのかを思い出してほしい。理事会の下にあり、常設委員会や特別作業部会の上に位置し、これらの委員会や特別作業部会と本部や理事会との連絡を取り、科学・技術的ワークストリームの実施を支援している。メンバーが IDF で重要な指導的役割を果たすために時間を割けるのは、それぞれの国内委員会や所属企業・団体からの支援があるからだ。彼らは本当に良い仕事をしているし、組織の運営や科学計画を維持するために不可欠な存在である。2021年には、国内委員会から承認された11の新規活動項目がある。その内容は、農場から加工、栄養表示、マーケティングまで、酪農乳業の分野全般にわたっている。IDFの科学技術プログラムは、酪農乳業の流れ全体に関わっている。世界的なパンデミックに見舞われたが、IDFは2021年も任務を遂行し続けた。新しい6つのブリテン、5つのIDF-ISO合同規格、1つの意見書が出版された。コーデックス規格については、WHOと連携した7つの委員会に17回意見を提出したが、必ずしも牛乳乳製品に好意的な委員ばかりではない。国連食料安全保障委員会や国連食料システムサミットについても、GDPなどとの共同活動により、これらの国際的なフォーラムで世界の酪農乳業セクターの科学的・技術的側面を代表することが重要である。



7月の国連食料システムサミットのプレサミットの直前に発表された「酪農乳業の持続可能性見通し」など3つの報告書と、7つのファクトシートがある。IDFのファクトシートがあれば、国の委員会や乳業会社に決定的なリソースを提供することができる。酪農団体や酪農家の方々に、「これが方法で、これが理由だ」と示すことができる。

約30のイベントやテクニカルウェビナーを開催した。この1年半の間、直接の会合はできなかったが、IDFが活動するすべての分野において、世界中の酪農乳業界に重要な情報を提供し続けてきた。

2022年の優先項目は、以下の4項目である。

- ①コーデックスの乳製品規格と食品添加物一般規格との間の規定の調整
- ②汚染物質に関する情報プラットフォームと、洗剤や消毒剤に関する手引きの改定

③カーボンフットプリントと LCA に関する IDF の共通方法論

④水の使用と再利用に関するコーデックス食品衛生委員会への IDF 意見に関するガイドライン

2022 年、ドイツで開催される IDF、ISO 分析ウィークはハイブリッド形式となるが、主催者のドイツの皆様には感謝したい。9 月 12 日～15 日にはインドのニューデリーで IDF ワールドデーリーサミット 2022 が開催される。インド IDF に主催いただき感謝している。世界最大の生乳生産国であるインドに行き、酪農セクターがどのようなものかを学ぶことを楽しみにしている。

IDF 賞等の表彰

IDF グローバルデーリーカンファレンス 2021 では、3 人の酪農乳業の優等者が、その指導力、献身、そして酪農乳業セクターへの貢献を称えられた。以下の 3 つの賞の受賞者は、10 月 14 日の晩餐ガラディナーで発表された。

今年度の「IDF 優秀賞」は、英国デーリーUK の主任栄養科学者であり、IDF 栄養健康常設委員会の副委員長でもあるエリカ・ホッキング氏に、過去数年間の IDF での優れた活動を評価して、授与された。ホッキング氏は、世界中の学乳プログラムに関する情報を収集するアクションチームのメンバーとして活躍し、IDF 世界の学乳ブリテン出版のためにデータの照合や分析を行なった。また、IDF 栄養健康シンポジウムの組織委員長も務めた。このシンポジウムは、今年度の IDF イベントの中で最も成功したものの一つであり、数百人の参加者を集め、優れた科学的成果を生み出した。

「常設委員会リーダー顕彰賞 (Standing Committee Leader Recognition)」は、フランスのフィリップ・トロサート氏に授与された。トロサート氏は、アクタリア社の牛乳乳製品分析部門長であり、IDF 成分分析法常設委員会の委員長として 3 期目 (合計 6 年) を務めた。これまでに多くの IDF/ISO 規格の開発や改訂を主導し、現在も携わっている。

「イヴ・ブトナ IMP (International Milk Promotion) トロフィー賞」はフランスの「#Fromagissons」の活動が受賞した。新型コロナ禍において、消費者の牛乳乳製品に対する信頼と消費が増加し、牛乳乳製品が健康的で持続可能な食生活の一部を形成するという見方を獲得したことが評価された。IMP トロフィー賞は、IDF マーケティング常設委員会のアクションチームであり、19 の加盟国で構成されている。本年度の最終選考に残ったのは、フランス CNIEL とアイルランド National Dairy Council の 2 組だった。

② IDF ビジネスミーティング 2021 (IDF 総会、IDF 事務局長会議及び IDF 常設委員会会議)

各会議が次の日時で開催され、J ミルク国際委員会より、常設委員会会議に対しては国際酪農連盟国内委員会 (JIDF) で登録している IDF 常設委員会委員を中心に当会専門分科会・小分科会よりそれぞれの会議に、IDF 総会及び事務局長会議には JIDF 会長 (国際委員会委員長)、国際委員会事務局長、JIDF 事務局長及び JIDF 事務局次長がそれぞれの会議に出席しました。

なお、IDF 総会にて、リチャード・ウォルトン氏 (明治) が IDF 科学・計画調整委員会委員に再選されました (任期 2 年)。

開催日	開催時間 (日本時間)	総会、事務局長会議、常設委員会 (日本からの出席者数)
10月10日 (水)	17:00-19:00	IDF 微生物学的衛生常設委員会 (SCMH) (出席者 1 名)
	20:00-22:00	IDF 事務局長会議 (出席者 2 名)
10月11日 (木)	17:00-19:00	IDF 農場管理常設委員会 (SCFM) (出席者 1 名)
	20:00-21:30	IDF 酪農政策・経済常設委員会/マーケティング常設委員会合同 会議 (SCDPE/SCM) (出席者 1 名)
	20:00-22:00	IDF 家畜の健康・福祉常設委員会 (SCAHW) (出席者 1 名)
	20:00-22:00	IDF 規格・表示常設委員会 (SCSIL) (出席者 2 名)
	21:45-23:00	IDF マーケティング常設委員会 (SCM) (出席者 1 名)
	23:15-24:30	IDF 酪農政策・経済常設委員会 (SCDPE) (出席者 1 名)
10月12日 (金)	17:00-19:00	IDF 成分分析法常設委員会 (SCAMC) (出席者 2 名)
	17:00-19:00	IDF 栄養・健康常設委員会 (SCNH) (出席者 2 名)
	20:00-22:00	IDF 乳業科学・技術常設委員会 (SCDST) (出席者 2 名)
	20:00-22:00	IDF 残留物質・化学汚染物質常設委員会 (SCRCC) (出席者 2 名)
	23:00-25:00	IDF 環境常設委員会 (SCENV) (出席者 2 名)
	20:00-23:00	IDF 総会 (出席者 4 名)
11月3日 (水)	17:00-19:00	IDF 酪農微生物分析法常設委員会 (SCAMDM) (出席者 1 名)
	20:00-22:00	IDF 微生物分析法ハーモニゼーション常設委員会 (SCHMM) (出 席者 1 名)

II GDP 関連

1) GDPブリテン、ニュースメール等から

① [GDPブリテン 2021年9月/10月号](#)から

「酪農乳業ネットゼロへの道筋」、気候変動への取り組み (イニシアチブ) を立ち上げ

「酪農乳業ネットゼロへの道筋 (Pathways to Dairy Net Zero)」は、[気候変動ウィーク](#)である 2021 年 9 月 22 日、[国連 \(UN\) 食料システムサミット](#)の前日に発足した画期的な気候変動への取り組みです。世界の最大手乳業メーカー 20 社のうち 11 社を含む約 60 の主要組織が、この取り組みへの支持を表明しています。これらの支持者を合計すると、世界の生乳総生産量の約 30%に相当します。

この新しい気候変動への取り組みは、60 億人に栄養価の高い食品を生産し、10 億人の人々の生計を支え続けながら、温室効果ガスの排出量を削減するという、世界の酪農乳業セクターのコミットメントを示すものです。

世界の酪農乳業セクターと科学・研究機関の代表者を含むマルチステークホルダーの組織が、すべての酪農乳業システムに対応できるような、科学的根拠に基づく方法論、ツール、道筋を開発するために協力しています。



積極的な気候変動対策が可能なところを特定する研究が進められており、[スコットランド農村大学](#)と[ニュージーランド農業温室効果ガス研究センター](#)が主導しています。これらの研究機関は、「[農業温室効果ガスに関するグローバルリサーチアライアンス \(GRA\)](#)」に加盟する 65 カ国のうちの 2 カ国の研究機関です。また、この研究は、[国連食糧農業機関 \(FAO\)](#) によるデータと分析によって裏付けられています。

今後は、11 月に開催される国連気候変動会議 (COP26) で、まだ気候変動対策を始めていない人たちに刺激を与えるために酪農乳業セクターの気候変動対策のチャンピオン (優等者) のストーリーを紹介します。

まだご存じでない方は、[公式ウェブサイト \(www.PathwaysToDairyNetZero.org\)](http://www.PathwaysToDairyNetZero.org) で説明されているように、この成長中のムーブメントに「サインオン (登録)」されることをお勧めします。

この取り組みの協力組織は次の通りです：[グローバルデーリープラットフォーム \(GDP\)](#)、[国際酪農連盟 \(IDF\)](#)、[持続可能な農業イニシアチブプラットフォーム \(SAI\)](#)、[国際家畜研究所 \(ILRI\)](#)、[デーリーサステナビリティフレームワーク \(DSF\)](#)、[IFCN 酪農研究ネットワーク](#)。

「[農業温室効果ガスに関するグローバルリサーチアライアンス \(GRA\)](#)」は、学術協力組織です。

立ち上げイベント (9/22) の発表スライドは、[こちらをクリック](#)。

GDP 理事会の新議長 (GDP 新会長) を発表

2021 年 9 月 1 日、[ロイヤル・フリースランド・カンピーナ社](#) (オランダ) の最高経営責任者であるハイン・シューマツハ氏が、GDP 理事会の議長に就任しました。シューマツハ氏は、4 年の任期を終えた[デーリー・ファーマーズ・オブ・アメリカ社](#) (DFA) の社長兼最高経営責任者であるリック・スミス氏の後任となります。

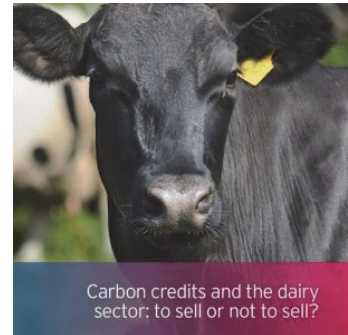


シューマツハ氏は、「GDP の会長として、理事会に支えられてリックが築いた勢いを引き継ぐことができ、光栄です。リックのリーダーシップにより、酪農乳業が世界的に持続可能な食料システムの中で重要な役割を果たしていると認識されるよう、GDP の役割が強化されました。」と述べています。

「ハインとは何年も一緒に仕事をしてきましたが、彼が今の GDP を導くのにふさわしい人物であることは間違いありません。GDP と世界の酪農乳業セクターの未来は明るいです。」と付け加えました。スミス氏は、引き続き GDP の理事を務めます。

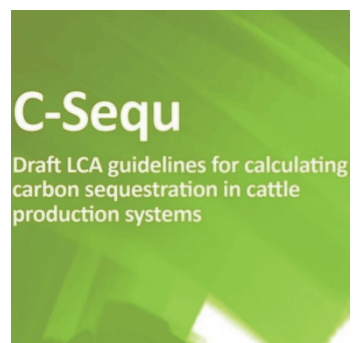
炭素クレジットと炭素隔離に関する新たな資料を提供

GDP は、2つの新しい報告書を世界の酪農乳業セクターに提供します。1つ目は、炭素クレジットに関する報告書「Carbon credits and the dairy sector: to sell or not to sell? (炭素クレジットと酪農乳業セクター: 売却すべきかどうか?)」です。GDP と国際的な持続可能性コンサルティング会社である [クアンティス \(Quantis\) 社](#) が共同で作成したこの報告書は、酪農乳業セクターの社会的事業認可をリスクにさらすことなく、炭素クレジットを売却すべきかどうかを判断するための背景と実践的な段階に関する情報を提供しています。



この報告書のダウンロード (英文・日本語仮訳) は、[こちらをクリック](#)。

2つ目は、ライフサイクルアセスメント (LCA) を基本とした、牛の畜産システムにおける炭素隔離量を算出する方法論のガイドラインです。「C-Sequ」と名付けたこの方法論は、酪農・肉牛団体、世界の土壌学者、LCA の専門家からなる共同事業体 (コンソーシアム) によって開発されました。



「C-Sequ」の方法論は、すでに世界中の100以上の異なる牛の畜産システムで実験が行われていますが、酪農での実証実験を追加することが求められています。

この報告書のダウンロード (英文) は、[こちらをクリック](#)。

② [GDPブリテン 2021年11月/12月号](#)から

GDP は、COP26 で酪農乳業セクターの声を届ける

2021年10月31日～11月12日に開催された世界最大の気候変動会議である [COP26](#) では、世界の酪農乳業セクターが非常に大きな活動をしました。GDP は2名の代表者が直接現地へ赴き、「酪農乳業ネットゼロへの道筋 (P2DNZ)」について、会議期間中、以下のような様々なイベントで紹介しました。



「Creating an evidence-base for supporting low-emission and resilient livestock development (GHG 低排出で強靱性のある畜産の開発を支援するためのエビデンス構築)」というタイトルのイベントが、2021年11月3日に国際農業開発基金 (IFAD) のパビリオンで開催されました。GDP のドナルド・ムーア氏は、デーリーサステナビリティフレームワーク (DSF) の詳細と、P2DNZ との関連性について説明しました。

このイベントの録画 (YouTube) は、[こちらをクリック](#)。

「Raising Ambitions on Climate Change Action in the Global Dairy Sector to Achieve the Paris Agreement (パリ協定の達成に向けて、世界の酪農乳業セクターにおける気候変動対策の野心を掲げる)」というタイトルのイベントが、GDP とウルグアイ共和国との共催で2021年11月4日に開催されました。このイベントには、FAO のチュ・ドンユイ事務局長、ウルグアイのフェルナンド・マト

ス畜産・農業・水産大臣、米国のトム・ビルサック農務長官、ロイヤル・フリースランド・カンピーナ社のハイン・シューマツハ CEO などが参加しました。

このイベントの録画 (YouTube) は、[こちらをクリック](#)。

「Pathways to Dairy Net Zero, a Ground-Breaking Climate Initiative for Agriculture (酪農ネットゼロへの道筋～農業における画期的な気候変動対策～)」というタイトルのイベントが、2021年11月8日に開催され、国際商工会議所 (ICC) の「[Make Climate Action Everyone's Business Forum \(気候変動対策を行う全ての人のビジネスフォーラム\)](#)」(11月1日～12日)というイベントの一環として行われました。

このイベントの録画 (YouTube) は、[こちらをクリック](#)。

また、COP26の期間中に、以下の2つの新しいP2DNZに関するビデオが公開されました。
(ビデオ)

- ・ [世界の酪農乳業セクターのCEOが気候変動問題に対応するために立ち上がる](#)
- ・ [世界中から集まった気候変動に対応する酪農乳業のチャンピオンたち](#)

P2DNZをいち早く採用し、支持して下さった酪農乳業のリーダーや組織の皆様には感謝いたします。まだご存じでない方は、この新しい気候変動への取り組みを支持するために「登録」を是非お願いします。

P2DNZに関して、詳しくは[こちらをクリック](#)。

「農業に関するコロニア共同作業」が、家畜のためにポジティブな結論を出す

「[農業に関するコロニア共同作業 \(KJWA\)](#)」は、国連気候変動枠組条約 (UNFCCC) の下での農業に関する議論を制度化するために2017年に創設されました。KJWAの4年間の任務は、気候変動に対する農業の脆弱性と食料安全保障への対策を検討し、主に温室効果ガス問題への適応と緩和の両方を提供できる可能性のある方策に焦点を当てています。

GDPは、会議に出席したり、技術的な提出物を作成したり、各国の代表者や事務局と強い関係を築くなど、プロセス全体を通して積極的に活動してきました。KJWAの最終結論報告書では、農業が気候変動に影響を与えるというよりも、気候変動が農業に与える影響に焦点を当て、家畜に対してポジティブな言葉が使われています。また、この報告書では、主な緩和策としての食事の変化に関する提言は避けられています。

KJWA 最終結論報告書 (英文) は、[こちらをクリック](#)。

GDP 年次総会では、国連食料システムサミットと IFAD より、講演者が登壇した

GDPは、2021年11月17日(水)に第15回年次総会を開催しました。様々なタイムゾーンに対応するために2回行われたバーチャルミーティングでは、基調講演として、2021年の[国連食料システムサミット](#)における国連事務総長特使の[アグネス・カリバタ博士](#)と、[国際農業開発基金 \(IFAD\)](#)のプログラム管理担当副総裁の[ドナルド・ブラウン氏](#)が登壇しました。IFADは、国際金融機関であり、国連の食料・農業に関する拠点であるローマに本部を置く国連の専門機関です。

また、世界の酪農乳業セクターにとって重要な様々なトピックについて、強力な講演者たちが登壇しました。

2) 国際会議の報告

① GDP「酪農乳業ネットゼロへの道筋」の立ち上げ説明会

開催日：2021年9月13日（月）6:00～8:00（米国中部時間）※日本時間では、20:00～22:00

開催方式：オンライン開催

概要：酪農乳業の協会や団体の関係者を対象に、気候変動対策として GHG 排出量の削減を加速させるためのイニシアチブ（取り組み）である、「酪農乳業ネットゼロへの道筋（Pathways to Dairy Net Zero）」の計画について説明会を開催しました。なお、Jミルクもこの取り組みに対する支持を表明しています（詳細は[こちらをクリック](#)）。

各議題の概要

歓迎と開会の言葉： キャロライン・エモンド（IDF 事務総長）

今回のイニシアチブへの動きは、2016年の持続可能な酪農システムに関する IDF/FAO 共同発表のデーリー・ロッテルダム宣言から始まっている。2019年には、畜産の低炭素化に関する報告書作成やセミナーなどが多数行われ、気運が高まった。



これまでも酪農乳業セクターでは、多くの国や企業で様々なコミットメントが出されている。GDP、IDF、SAI、IFSN、ILRI、DSF、GRA、FAO など多くの国際組織が共同で開発に関わった。

本日の目的は、農業分野では他に類を見ないこの画期的な気候変動に対するイニシアチブの概要を説明し、皆さんに支持していただくことである。

「酪農乳業ネットゼロへの道筋」とは： ドナルド・ムーア（GDP 専務理事）

2021年は国連食料システムサミットと COP26 が開催され、動物性食品への圧力や、家畜による気候変動への影響に照準が当てられるため、今、気候変動の問題に取り組むことが非常に重要である。酪農乳業は栄養・健康の維持、貧困・飢餓の削減、女性の地位、雇用機会、社会の結束、農村経済の向上に貢献できることを示しつつ、気候変動に対しても多大な貢献ができることを示す必要がある。また栄養健康面、経済面、社会面、環境面における他の SDGs とのバランスを保ちながら気候変動対策を強化する必要がある。



酪農乳業は大規模な農産製造業であり、他の農業団体からも注目されている。畜産だけでなく、その他の農業団体とも連携をとり、気候変動対策のリーダーシップを発揮していくことが重要である。

このイニシアチブは、生産から小売までのバリューチェーン全体で評価する LCA 法を用いる。先進国から途上国まで、世界各地の様々な多様性に適した、全ての酪農システムに見合った解決策を提供する。9月の食料システムサミットに合わせて正式に立ち上げ、COP26ではサイドイベントを実施し、実例としてのチャンピオン（優等者）を紹介する。資金面では、世界銀行、商業銀行、財団などと協議している。

実現可能性調査について： ヘイデン・モンゴメリー（GRA 特別代表）

このイニシアチブを分析するにあたり、世界の様々な酪農システムをモデル化し、いくつか分類に分ける必要がある。このモデル化には、FAO の GLEAM モデルを使用しており、牛 1 頭当たりの生乳生産量で分類すると、生産性の低い方が GHG 排出量は高く、生産性の高い方が GHG 排出量は低い傾向がはっきりと見られた。



生産性の異なる 3 つのシステム群（高・中・低生産性）で GHG 排出源の割合を比較し、具体的にどの緩和策に実現可能性があるのかを調査した。生産性に加え、気候要因、規模、飼養形態を考慮して、さらに 6 つのタイプに分類した。今後は、各類型での緩和策の効果をさらに追及し、短期的、長期的な可能性を特定する予定であるが、最終的な緩和策は、他の環境面、社会面、経済面など、全ての側面を考慮する必要がある。

測定について： ブライアン・リンゼー（DSF ディレクター）

サステナビリティの 3 つの柱（社会、経済、環境）をカバーする 11 の評価項目を設定し、酪農乳業のバリューチェーン全体をカバーする LCA 法で評価している。現在、収集しているデータは、世界の生乳生産量の 30%を占めている。



世界には多様な酪農システムがあり、道筋は一つではなく、それぞれのシステムに見合った道筋を検討しなければならない。会員はマテリアリティ分析を行い、11 の基準の中から優先順位をつけて取り組みを行い、結果について毎年報告をしている。前競争的に協調性を重視し、結果については国や企業をまたいで情報を共有する。FAO の GLEAM モデルに、IDF の LCA 法、LEAP 法を組み込み、さらに最適な測定方法を開発する。

サポートやコミットメントの提供方法： ピエルクリスチアーノ・ブラザーレ（IDF 会長）

全ての大陸で、すべての酪農乳業のコミュニティ全体で、できるだけ早く行動を取る必要がある。6 つの基本方針を掲げ、今後 30 年間で、温室効果ガスの排出量を削減することにより、気候変動対策を加速させる。多くのサポートが必要であり、宣言書にサインして支持してほしい。そして「酪農乳業ネットゼロへの道筋」の公式サポーターとなり、様々な方法で支持の流れを拡散してほしい。



DSF にも是非参加してほしい。（※J ミルクを通じて参加している日本会員は、新たに参加する必要はないことを確認済）今後、新たなサポーター情報、基本方針を实践したケーススタディーの紹介、最新の研究成果、世界的な GHG 排出量のデータ、情報拡散用の素材など、定期的に提供する。

支持者からのコメント：

ロバート・エアハード (SAI 代表)

SAIには様々な農産物を扱うワーキンググループがあり、酪農乳業グループは協同組合や企業に対して、持続可能性に向けた支援を行っている。活動内容を伝えるコミュニケーションにも力を入れている。このイニシアチブに協力、実用的なものにしていきたい。



イアン・ライト (ILRI 副所長)

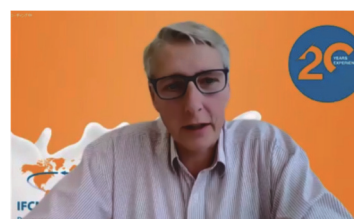
ILRIは、ケニア・ナイロビに拠点を置く、低・中所得国の家畜に関する研究開発に特化した唯一の研究センターをもつ。ケニアでは酪農乳業セクターで55,000人以上の雇用が創出され、特に女性や若者はバリューチェーン全体での雇用を通じて恩恵を受けることができる。



途上国は、生産性の向上で排出量削減の大きなチャンスがある。途上国が酪農乳業から受ける恩恵が損なわれないよう、このイニシアチブをサポートしたい。

トルステン・ヘメ (IFCN 創設者、兼 CEO)

農業システムを変えることは非常に困難な作業だが、一度それを正しく行えば、非常に大きな利益を得ることができる。一緒にやればできる、そしてここまではやり遂げた。何百万人もの生計を保障し、途上国の農村開発とのバランスを保てた。征服したと表現したい。このイニシアチブに参加できて本当によかった。



コミュニケーション立上げ計画：ケビン・バーカム (GDP コミュニケーションディレクター)

マーケティングコミュニケーションの専門家は、時に大げさな表現をしがちだが、この取り組みを語るときには、本当に誇張ではない。コミュニケーション計画は、7月のプレサミットでの公表、9月の食料サミットでの立ち上げ、11月のCOP26での事例紹介の3つのフェーズで展開する。



第1フェーズでは、啓発活動用のガイドや素材を作成し、キャンペーンによって様々なメディアで関心を集めることができた。第2フェーズでは、サポーターパックを使用して、業界内だけでなく外部への認知も高めると同時に、同業者からの支持と参加を集めたい。サポーターには、認知や支持の拡大のため、情報の拡散をお願いしたい。第3フェーズのCOP26で、チャンピオン（優等者）やアーリーアダプター（導入予定者）として紹介したい方は、連絡してほしい。このイニシアチブを成功させるためには、コミュニケーションが鍵になると考えている。

② GDP 年次総会

開催日：2021年11月17日（月）6:00～9:30、または18:00～21:30（米国中部時間）

※日本時間では、21:00～24:30、または 11/18 9:00～12:30

開催方式：オンライン開催

概要：GDP 年次総会では、2021 年の GDP 活動計画について、進捗と成果が報告されました。各プログラムの概要については、国際 Dairy レポート第 8 号に掲載予定です。本誌では、2 名の基調講演の内容について、紹介いたします。

プログラム

- 開会挨拶：ハイン・シューマツハ氏（GDP 会長、ロイヤル・フリースランド・カンピーナ社 CEO）
- 基調講演：アグネス・カリバタ博士（国連食料システムサミット特使）
ドナルド・ブラウン氏（国際農業開発基金（IFAD）副総裁）
- GDP の活動が持続可能なフードシステムに貢献する理由：
マーガレセ・ヨルクマン博士（GDP 副会長、ロイヤル・フリースランド・カンピーナ社研究開発部長）
- GDP 最新情報：ドナルド・ムーア氏（GDP 専務理事）
- 酪農乳業ネットゼロへの道筋：気候変動対策の加速化：
ケビン・バーカム氏（GDP コミュニケーション・ディレクター）
- 規模に応じた酪農乳業の持続可能性の測定と報告：
ブライアン・リンゼー氏（GDP サステナビリティ部門リーダー）
- 酪農乳業の社会・経済的影響を測定する - グローバル・ビジョン：
アーネスト・レイエス氏（GDP 酪農開発部門リーダー）
- 牛乳乳製品のエビデンス構築：ミッチ・カンター博士（GDP テクニカル・ディレクター）
- アフリカに栄養を与える酪農乳業～行動とインパクト～：
ジェイ・ウォルドボーゲル氏（DFA 社戦略・国際開発担当副社長）
ヴィッキー・タム氏（ベイン・アンド・カンパニー社グローバル社会的影響事業部長）

基調講演

アグネス・カリバタ博士（国連食料システムサミット特使）

GDP 会員の多様性は驚くべきもので、アフリカで実施されているプログラムは世界的に見ても多くの国で展開されていることは驚くべきことだ。皆様のリーダーシップも高く評価している。「酪農乳業ネットゼロ」についても嬉しく思う。特にアフリカは明らかに酪農乳業に力を入れているが、未だに達成できていない課題の一つである。そして、国連食料システムサミットへのコミットメントも評価したい。

今回の食料システムサミットは、食料システムを政治的なアジェンダとして取り上げる大きな機会となった。その結果、人々が食べ物についてどのように考え、どのように語るかというパラダイムを、実際にシフトさせることができたと思う。つまり、地球を維持していくためには、人々に食料を供給する手段としての食料と、経済や生活を向上させる手段としての食料との間で、適切なバランスを取ることを認識する必要がある。

165 の加盟国が声明を発表した。そのうち 77 カ国は国家元首による。107 の国家食料システムの道

筋が提示された。つまり、サミットの時点ですでに各国が戦略的な優先事項を提示することで、システム・アプローチが認められたことになる。また、231 のイニシアチブや連合が提出されたが、これは重要分野にコミットする新しい方法を見つける機会となった。その結果、5 つのアクション分野が明らかになった。

最も重要なのは、人々に栄養を与えることであり、飢餓への対応、栄養への対応、食料への対応など、人々に配慮したものは数多くあったが、それに加えて、環境の問題、生物多様性や二酸化炭素排出量に悪影響を与える環境問題をどのように解決するかという問題もあった。また、気候変動の観点から見ても、私たちの住む世界はますます厳しくなっていることを認識し、人々やシステム、経済の回復力と適応力を強化することを考える必要がある。私たちは、この分野の実施手段をどのようにして実現するのか、そしてそのためにはどのような資金が必要なのか、どのように統治していくかも検討した。

最後にイノベーションについて、私たちは、最大の課題を抱えている今、イノベーションが今後を決定づける要因になると認識している。私たちは、経済面と健康、栄養の確保、特に女性と子どもの健康増進のために、酪農乳業セクターが持つ立場と役割を高く評価している。

COP26 に出席して戻ってきたところである。「酪農乳業ネットゼロへの道筋」は、前進すべき大きなイニシアチブだ。対話に参加し、何が問題になっているのかを話し合い、解決策やあらゆる種類の解決策を一緒に考え、食料システムに取り組んでいる世界の他の国々と協力して解決策を見つけることをお勧めしたい。私は、食料システムの気候変動への課題を確実に乗り越えるために、皆さんと協力していきたい。

ドナルド・ブラウン氏（国際農業開発基金（IFAD）副総裁）

世界の食料システムは、気候変動や紛争などの影響で食料不安や栄養不良が高まる中、より持続可能で包括的なものへと変革していく必要がある。そして、SDGs 達成の可能性を残すためには、今すぐ行動しなければならない。

酪農セクターは、金額では世界最大、物量では世界第 3 位の農産物であることを考えると、このセクターの改善は変革プロセスの鍵となる。そして、IFAD にとって最も重要なことは、酪農セクターが、小規模農家、牧畜民、土地を持たない農民、農村の女性など、伝統的に社会的に不利な立場に置かれている人々にとって、収入と栄養の重要な供給源であることである。酪農セクターの重要性を認識し、IFAD は、ブルンジ、ルワンダ、グルジア、クルディスタン、タジキスタン、ウズベキスタンなどの酪農セクターに焦点を当て、進行中のプロジェクトに 3 億 5000 万ドル相当の投資を行っている。

また、バリューチェーン開発や農村金融など、多くのプロジェクトのサブコンポーネントとして酪農生産を支援している。これらのプロジェクトでは、長期的な酪農セクターの発展を促進するだけでなく、新型コロナ禍での短期的な支援も重要である。そして、GDP は、農村部の小規模生産者が直面する課題を解決するための重要な戦略的パートナーだと考えている。

IFAD の現場での活動から、途上国の生産者は、牛群規模が小さいことによる労働生産性の低さなど、似た課題に直面している。牛 1 頭あたりの乳量が低いことは、養分の乏しい共同利用地や限界地を

利用していることが原因であることが多い。資金が少なく、信用へのアクセスが限られている。大量の食料廃棄が発生することは、人獣共通感染症の検査が不十分なために起こる汚染が原因であることが多い。技術的な知識やスキルが不足しており、獣医による人工授精などの支援サービスの利用が限られている。そして、加工方法や公式な販売方法など、市場の方向性が定まっていないこともある。

これらの問題を解決するためには、この分野でリーダー的な役割を果たしている GDP との連携が重要になる。官民のマルチステークホルダーコラボレーション、メンバーの幅広い専門知識、そしてあらゆるレベルの酪農家が公式な市場に参入できるよう支援している。GDP の専門家は、ケニア、ルワンダ、インド、ベトナムで、デリー・サステナビリティ・フレームワーク (DSF) の導入を試行している。このイニシアチブの主な目的は、社会的発展を生み出すために、公的および民間セクターからの酪農セクターへの投資を導くためのエビデンスを構築し、政策立案者や開発機関により良いツールや方法論を提供することである。

IFAD は、GDP が主導する 2 つの旗艦イニシアチブに関して、さらなる協力の機会を見出している。1 つ目は、IFAD は現在、酪農セクターへの投資の可能性についてタンザニア政府と再交渉している。特に、「アフリカに栄養を与える酪農乳業 (Dairy Nourishes Africa)」プログラムに興味を持っている。このプログラムは、東アフリカにおける包括的で環境的に持続可能なフードシステムの強靱性を促進することを目的としており、多くの相乗効果が期待できる。特に、15 年から 20 年という長期的な視野を持った取り組みであることに注目している。

2 つ目は、COP26 の勢いを受けて、排出量削減に関わる協力の可能性を感じている。酪農乳業セクターの温室効果ガス排出量を削減するための気候変動対策を加速させるという意味では、「酪農乳業ネットゼロへの道筋」は特に興味深い取り組みだ。特に、世界の生乳生産量の約 30% を占める組織がこのイニシアチブを支持していることに感銘を受けている。排出量に関しても、IFAD はパートナー団体が開発したベスト・プラクティスを注意深くモニターしている。その中には、温室効果ガス排出量を削減するための酪農生産の効率化、炭素吸収源を保護し、自然の生態系と一体化した生産方法の改善による温室効果ガスの除去、進捗状況を評価し、計画に役立てるための温室効果ガス排出量の測定・監視の改善などが含まれる。

最後に、SDGs 達成のための重要な時期を迎えるにあたり、GDP と協力していくという IFAD のコミットメントを改めて表明しておきたい。

III IFCN 関連

1) 国際会議の報告

① 20th IFCN Supporter Conference 2021

開催日：2021 年 9 月 15 日 (水)

開催方式：昨年に続き新型コロナの影響でオンライン開催

参加者：約 700 名、72 カ国から参加

概要：今回の会議テーマは、「酪農のデジタル化、世界の酪農の将来をどの様にデザインするか？」である。酪農乳業のバリューチェーンは複雑で多くの課題を抱えている中、今後の業界の

発展のためには、デジタル化と各セクターの連結性(connectivity)の向上が重要になっている。会議ではパネルディスカッションも開催されデジタル化への道筋が語られた。

② IFCN Dairy Forum Vol.2

開催日：2021年11月18日（木）

開催方式：オンライン開催

参加者：約250名、85カ国からの参加

概要：今回の会議テーマは、「新興国における温室効果ガス削減の道筋」。世界全体の酪農産業における新興国の温室効果ガス（GHG）排出量の割合は非常に大きい。そこでその現状を把握し、新興国の酪農家における収益性・持続性を確保・拡大しながらどのようにGHGを削減していくのかが議論された。

③ IFCN Dairy Processors, People, Planet and Profit Conference 2021

開催日：2021年12月8日（水）

開催方式：オンライン開催

参加者：60カ国の業界関係者が参加

概要：12月8日にIFCNより発刊された”Dairy Processor Report 2021”発表イベントがオンラインで開催された。同レポートでは、乳業メーカー世界上位20社が「人」People、「地球」Planet、「利益」Profitの視点から、これら企業の社会への貢献度、持続可能な取り組み、収益性の確保などの分析を行っている。

IFCN主催会議や出版物の詳細に関しては、下記サイトを参照ください：

<https://dairyreport.online/>

<https://www.ifcndairy.org/>

IV DSF 関連

1) 国際会議の報告

① DSF Members Annual Meeting 2021 (DSF 会員年次総会 2021)

開催日：2021年11月30日（火）19:00～22:00（英国時間）

※日本時間では、12/1 4:00～7:00

開催方式：オンライン開催

参加者：DSF関係者限定 約120名

概要：開会挨拶 Donald Moore氏（DSF 会長）

1. DSF アップデート(活動に関する近況) Brian Lindsay氏(DSF 開発ダイレクター)

各国 DSF 会員からの 2020 年活動報告を 11 の評価基準項目ごとにグローバル酪農乳業として集計とりまとめ作成した **DSF 2020 年レポート (2020 Reporting)** ([下記リンク](#))

参照) の概要説明。

2. 酪農乳業ネットゼロへの道筋(Pathways to Dairy Net Zero: P2DNZ) について。

Kevin Burkum 氏 (GDP コミュニケーション・ダイレクター)

Hayden Montgomery 氏 (GRA 特別代表)

P2DNZ のグローバル活動状況報告に DSF のフレームワークを活用することになる。

3. ブレイクアウト・セッション

セッション進行 ハーパー・アダムス大学(英国) Jude Capper 教授

Capper 教授から生物多様性、土壌、アニマルケア、廃棄物、水の 5 つの項目に関するエレベーターピッチが行われた後に、参加者はそれぞれの項目グループに分かれ、DSF 会員が異なる地域でそれぞれ特定の持続可能性の課題についてどのように取り組んでいるかをケース・スタディとして紹介し、それを元に参加者間で意見交換を行った。各グループ代表者はその協議内容を本会議に再集合してから報告。(残念ながらテクニカルな理由から各グループにおける意見交換の録画が残っていないため、本 5 項目について 2022 年の DSF Webinar のテーマで取り上げて再度実施することになった。)

4. 基調講演「消費者との食に関する持続可能性対話の課題考察」

インペリアル・カレッジ・ロンドン(英国) David Hughes 名誉教授

酪農セクターが持続可能性の取り組みのコミュニケーションをどのように改善できるかについて様々なコミュニケーションを事例にあげて洞察。

DSF について

～グローバル酪農乳業の持続可能性の取り組みへの総合的アプローチを提供～

J ミルクは 2021 年 3 月末にデーリー・サステナビリティ・フレームワーク (DSF) に加盟し、国内酪農乳業の持続可能性に向けた取り組み状況を集約して DSF に報告するアグリゲーティングメンバーとしての役割を担うことになりました。

(詳細は J ミルク HP <https://www.j-milk.jp/news/h4ogb4000000610e.html> ご参照ください。)

DSF は世界の酪農乳業で共有できる持続可能性に向けた評価基準項目をはじめとする枠組みを設定しており、これを元に各国の会員が取り組んだ経過と進捗状況を取りまとめグローバル酪農乳業の持続可能性取り組み状況として毎年報告・公表しております。

グローバル酪農乳業分野で共有できる 11 の評価項目 (グローバル・クライテリア)

DSF はグローバル酪農乳業で共通して関連する 11 の持続可能性評価基準項目 (以下 グローバル・クライテリア) に焦点を当てて定め、さらにこの個々の項目における高次元な目標 (以下 戦略的意図) を設定しております。

DSF の枠組みとなるグローバル・クライテリアに基づく戦略的意図に向けた取り組みの実践に当たっては、個別のグループ、領域または組織がそれぞれ現地ベースで独自の異なった活動やプログラ

ムの開発・実施を可能にしております。（DSF から特定の活動指示は行いません。）

また、各々のグローバル・クライテリアには、DSF がグローバル酪農乳業バリュー・チェーンとして取り組み進捗状況を集約して数値をもってレポート作成するために用いる測量指標（インジケータ）を設定しております。

各会員はそれぞれ優先して取り組むべき重点項目を 11 の DSF グローバル・クライテリアの中からマテリアリティ分析のプロセスを経て 2~3 項目選定して取り組み、毎年活動経過と進捗状況を DSF に報告します。DSF はこれらの会員レポート結果を元に先述グローバルにおける酪農乳業バリューチェーンの持続可能性取り組み経過ならびに結果として DSF レポートを年 1 回発行・公表しております。DSF 2020 年レポートは下記リンクより参照ください。

（原文：<https://dairysustainabilityframework.org/>

日本語訳：J ミルク HP <https://www.j-milk.jp/report/international/index.html#hdg3>）

DSF 11 Criteria (11 評価項目) 本 DSFCriteria に関する日本語訳は参考として J ミルクが作成したものです。DSF オリジナル英語原文による解釈を優先くださいますようお願い申し上げます。  **Dairy Sustainability Framework**

 温室効果ガス排出 (GHG)	 土壌養分	 土壌の品質と保持力	 水の可用性と水質	 生物多様性	 労働条件
戦略的意図 バリューチェーン全体にわたる温室効果ガス (GHG) 排出量は、すべての経済的に成り立つ手段を通じて定量化され、削減される。	戦略的意図 土壌品質を維持・強化しつつ、水と大気への影響を最小限に抑えるために、養分の適合性を管理する。	戦略的意図 土壌の品質と保持を積極的に管理、向上させ、適正な生産性を確保する。	戦略的意図 水の可用性と水質が、酪農乳業のバリューチェーン全体で責任を持って管理される。	戦略的意図 直接および間接的な生物多様性のリスクと機会が理解され、それを維持・強化するための戦略が確立される。	戦略的意図 酪農乳業のバリューチェーン全体で、労働者は安全な環境で業務を行い、その権利は尊重され、促進される。
測量指標 GHG 排出量 IDF 方法論に基づく	測量指標 養分管理計画 (NMP)	測量指標 土壌品質管理計画 (SQMP)	測量指標 排水管理計画 (EMP) 水利用効率	測量指標 生物多様性計画 (BP)	測量指標 農場/施設安全計画 (FSP)
計測 GHG 排出レベル	計測 養分管理計画 (NMP) 実行数	計測 土壌品質管理計画 (SQMP) 実行数	計測 排水管理計画 (EMP) 実行数	計測 生物多様性計画 (BP) 実行数	計測 農場/施設安全計画 (FSP) 実行数
 家畜管理 (アニマルケア)	 廃棄物	 市場開発	 農村経済	 製品安全性と品質	
戦略的意図 乳牛は注意深く扱われ、空腹感や渴き、不快感、痛み、怪我や病気、恐怖や苦痛から解放され、比較的正常な動物行動パターンが確保されている。	戦略的意図 廃棄物発生は最小限に抑えられ、やむを得ない場合は廃棄物が再利用されリサイクルされる。	戦略的意図 酪農乳業バリューチェーンの一員は、透明性のある効果的な市場の開発を通じて経済的に成り立つ事業を構築することができる。	戦略的意図 酪農乳業セクターは、農家と農村共同体の強靱性と経済的に成り立つように貢献。	戦略的意図 製品の最適な栄養、品質、安全性を確保するため、酪農乳業バリューチェーンの一貫性と透明性が保護されている。	
測量指標 体細胞数 (SCC)	測量指標 農場レベル：廃棄物管理計画 (WMP) の実行 製造加工業者レベル：1 年あたりの廃棄物埋立処分量	測量指標 生産者に市場機会と課題を知らせるためのプロセス	測量指標 農家への年間 乳代支払金額	測量指標 製品安全性&品質リコール計画 (PS&Q) の有無と報告期間中リコール報告件数	
計測 生乳 1ml 当たりの体細胞数 1,000 個単位	計測 農場における WMP 実行数と報告廃棄物量	計測 プロセス実行数	計測 年間生乳販売トン数 × 年間平均乳価	計測 製品安全性&品質リコール計画 (PS&Q) と公表リコール数	

3. 国際会議等の日程及び出版物の紹介

I 国際会議等の日程

今後開催される IDF 国際会議、関連コーデックス会議、ならびに GDP 国際会議、IFCN 国際会議等の日程は次のとおりです（IDF TIMETABLE OF MEETINGS, 2021 年 8 月などを参照）。詳細ご希望の方は、国際委員会事務局までお問い合わせ下さい。

	年 月 日	国際会議	関連コーデックス会議	開催場所
1	2022 年 4 月 25 日 (月)～28 日 (木)	IDF/ISO 分析ウィーク		コンスタンツ (ドイツ)
2	2022 年 6 月 13 日 (月)	第 8 回 IDF パラ結核症フォーラム* ¹		ダブリン (アイルランド)
3	2022 年 5 月 29 日 (日)～31 日 (火)	IFCN Dairy Conference 2022 (年次総会、会員限定)		キール (ドイツ)
4	2022 年 9 月 (サミット直前)	IDF ビジネスミーティング		ニューデリー (インド)
5	2022 年 9 月 12 日 (月)～15 日 (木)	IDF ワールドデーリーサミット		ニューデリー (インド)
6	2023 年	IDF ワールドデーリーサミット		未定
7	2024 年	IDF ワールドデーリーサミット		パリ (フランス)

*¹ 詳しい情報はウェブサイト (https://fil-idf.org/idf_events/8th-idf-paratb-forum-2/) を参照。

II 国際組織の出版物

① IDF ブリテン

出 版 物	標 題 及 び 概 要
<p>1</p> <p>IDF ブリテン 512 (2021 年 10 月)</p>	<p>「世界の酪農状況 2021」 報告書</p> <p>乳および乳製品の生産、加工、企業、消費、貿易、価格に関する情報を含む年次調査。各国および国際的な情報源からの包括的なデータ。現在のトレンドについての説明。主要な生産国および消費国を網羅した世界と地域の解説。本報告書は、変化し続ける世界の牛乳乳製品市場の状況に関心を持つ意思決定者や酪農乳業セクターの関係者にとっての必読書です。</p> <p>(全文 243 頁)</p>
<p>2</p> <p>IDF ブリテン 513 (2021 年 12 月)</p>	<p>菌株レベルでのプロバイオティクスの同定 - ガイダンス文書</p> <p>プロバイオティクスとは、宿主の健康に有益な効果をもたらす特定の微生物株のことで、「適量を投与することで宿主に健康上の利益をもたらす生きた微生物」と定義されています。2002 年、「食品中のプロバイオティクスの健康および栄養特性の評価」に関する FAO/WHO 合同専門家協議において、食品中のプロバイオティクスの評価に関する最初のガイドラインが提案されました。そのポイントの一つは、微生物の正確な分類法を用い、菌株レベルでの同定を行うことでした。菌株の同定は、再現性のある遺伝学的手法やユニークな表現形質を用いて行われることが期待されています。この目的のために、技術的特徴、コスト、実現可能性が異なる様々な分類方法があります。全ゲノム塩基配列決定法 (WGS) は、研究のみならず、臨床、製薬、食品、飼料、工業分野における菌株同定のゴールドスタンダードとして、パルスフィールドゲル電気泳動法 (PFGE) に取って代わりつつありますが、必要なコストや技術的専門知識の点で、すべての研究室が利用できるわけではありません。同定の目的によっては、WGS は必ずしも必要ではありません。例えば、プロバイオティクス食品の品質管理のためのルーチン分析には、短時間でのハイスループット技術が必要です。本ブリテンは、IDF ブリテン 462/2013 の更新版であり、プロバイオティクスの菌株を同定するために利用できる様々な分類方法を、菌株レベルでの同定に必要なキャパシティーと利用限界の観点から紹介し、比較しています。</p> <p>(全文 36 頁)</p>

② ISO/IDF スタンドアード

出版 物	標 題 及 び 概 要
1	<p>乳および乳製品中の動物用医薬品の残留物質を検出するための定性的スクリーニング方法の検証に関するガイドライン</p> <p>液状乳中の動物用医薬品の残留物質を検出するための定性的スクリーニングテストの検証と検証のための新しい IDF/ISO ガイダンス。スクリーニングテストキットの製造業者、スクリーニング方法またはテストを検証する研究所、管轄当局および酪農乳業者、または乳製品中の動物用医薬品残留物の検出のための試薬またはテストのエンドユーザーの結果を完全に信頼するための手順の調和。</p>
2	<p>乳、乳製品及び育児用調製乳 - 液体クロマトグラフィーとタンデム質量分析 (LC-MS/MS) によるメラミンとシアヌル酸の測定</p> <p>この文書は、タンデム質量分析を併用した液体クロマトグラフィー (LC-MS/MS) によるメラミンおよびシアヌル酸の定量法に関するものです。この方法は、乳児用調製乳、大豆ベースの乳児用調製乳、粉乳、全乳、大豆飲料、ミルクチョコレートのスパイクサンプルの分析によって試験室間試験で検証済みであり、メラミンについては 0.71 mg/kg~1.43 mg/kg、シアヌル酸については 0.57 mg/kg ~1.45 mg/kg の範囲です。食品中のメラミンとシアヌル酸の定量限界 (LOQ) は、それぞれ 0.05 mg/kg と 0.25 mg/kg です。測定範囲の上限は、メラミンでは最大 10 mg/kg、シアヌル酸では最大 25 mg/kg です。</p>
3	<p>チーズ - 物理的および化学的試験のためのサンプル調製に関するガイダンス</p> <p>この文書は、物理的および化学的分析 (機器法の適用による分析を含む) のための、フレッシュチーズ、(セミ) ソフトチーズ、(セミ) ハードチーズ、プロセスチーズおよびホエイチーズの試料調製に関するガイダンスです。</p> <p>この文書では、ISO 707 IDF 50 に従ったサンプリングの後、および参考文献[2]から[22]に記載された分析法のように、分析法固有の試料調製の前に行われる (サブ) サンプリングおよび試料調製の手順について説明します。</p>

③ その他の出版物

出 版 物	標 題 及 び 概 要
<p>1</p> <p>その他の出版物 (2021年9月)</p>	<p>GDP「C-Sequ：牛の生産システムにおける炭素隔離計算に関するLCAガイドライン案」</p> <p>ライフサイクルアセスメント（LCA）を基本にした、牛の畜産システムにおける炭素隔離量を計算する初めての方法論が、実証試験用に公開されました。「C-Sequ」と名付けたこの方法論は、酪農・肉牛団体、世界の土壌学者、LCA 専門家からなる共同事業体（コンソーシアム）によって開発されました。</p> <p>炭素の回収と隔離は、地球規模の気候変動問題に対する緩和策として期待されていますが、隔離された炭素を定量化する現在の方法は複雑です。C-Sequ ガイドライン案には、定量化プロセスのためのわかりやすい段階的なガイドに加え、有用な事例も含まれています。</p> <p style="text-align: right;">(全文 33 頁)</p>
<p>2</p> <p>その他の出版物 (2021年9月)</p>	<p>GDP「炭素クレジットと酪農乳業セクター：売却すべきかどうか？」</p> <p>酪農家には、炭素クレジットを売却する機会があります。しかし、そうすべきでしょうか？ 答えは単純に「はい」か「いいえ」ではありません。明確になっていないのは、炭素クレジットの創出、取引、利用の方法が様々であることが主な理由です。酪農乳業セクターには、クレジットを創出し、取引し、利用する機会があります。したがって、酪農家、乳業者、世界の酪農乳業セクター、そして地球のために価値を生み出すためには、酪農乳業サプライチェーン全体での整合化が必要です。</p> <p>本報告書は、酪農乳業セクターの社会的事業認可をリスクにさらすことなく、炭素クレジットを売却するかどうかを決定するための背景情報と実用的なステップを提供します。</p> <p style="text-align: right;">(全文 10 頁)</p>
<p>3</p> <p>その他の出版物 (2021年10月)</p>	<p>IDF アニュアルレポート 2020～2021</p> <p>IDF アニュアルレポート 2020～21 では、IDF の優れた科学的・技術的な活動を紹介するとともに、IDF の業界を代表した主張およびコミュニケーションの活動概要、酪農乳業の持続可能性に関する情報、新型コロナウイルス感染症のパンデミックへの IDF の対応などを紹介しています。</p> <p style="text-align: right;">(全文 31 頁)</p>

4	その他の出版物 (2021年11月)	<p>IDF アニマルヘルスレポート第15号</p> <p>国際酪農連盟のアニマルヘルスレポート最新版は、11カ国及び3つの国際機関から家畜の健康と福祉に関する調査研究を紹介し ます。</p> <p>IDF「アニマルヘルスレポート」第15号は、持続可能な酪農生産における家畜の健康と福祉の重要性を説明し、情報と実践的な洞察を提供します。持続可能な開発と食料安全保障における家畜の健康と福祉の役割を探り、家畜の健康と福祉、そして生計を考慮した改善のための革新的なソリューションの例を示しています。</p> <p style="text-align: right;">(全文 36 頁)</p>
5	その他の出版物 (2021年10月)	<p>IFCN Dairy Report (酪農レポート) 2021</p> <p>IFCN (国際酪農比較ネットワーク) が、世界の酪農経営データを包括的に比較分析し、解説したものです。</p> <p style="text-align: right;">(全文 224 頁)</p>
6	その他の出版物 (2021年12月)	<p>IFCN Dairy Processer Report (乳業レポート) 2021</p> <p>IFCN (国際酪農比較ネットワーク) が、世界の集乳量上位20社の乳業メーカーを独自に集計し、解説したものです。</p>

編 集 後 記

Jミルク国際委員会事務局にて、「国際委員会ニュースレター」の編集を担当しております、齋藤と申します。

Jミルクでは国際情報収集提供事業として、酪農乳業に関する様々な国際組織や国連機関との連携等を通して得られた、多角的な国際情報を一元的に集約し、国内の諸課題に結びつけた形で国内関係者に提供・発信することに取り組んでいます。

具体的には、「国際委員会ニュースレター（関係者向け、年2回発刊）」、「国際 Dairy レポート（一般向け、年4回発刊）」、「Jミルクインテリジェンス（一般向け、月1～2回発刊）」の、3つの定期刊行物にて情報発信を行っています。本誌である「国際委員会ニュースレター」では、各国際組織で開催された国際会議やウェビナーなどの内容や活動のトピック、各組織で発行された報告書などの刊行物の紹介、国際会議のスケジュールなどの情報を掲載しております。

国際委員会では、酪農乳業に関する国際情報について、必要な情報を現場の関係者にまで広く伝えるための戦略や手段を考える場として、国際広報分科会を設置いたしました。国際広報分科会の活動の一環として、本誌の3ページ～8ページに今号より各専門分科会より業界全体に広くお知らせしたいトピックをご紹介しますので、是非ご覧ください。

また今回は、昨年10月に開催されました、IDF グローバルデーリーカンファレンスの初日のイベントに関して特集を組みました。コロナ禍の中で、初めてのハイブリッド方式での開催となり、日本からは全てオンラインでの参加となりました。オンラインでも講演を聞けることは便利な反面、現地での熱気など、肌感覚で感じられないのは若干寂しいとも思いました。

必要な国際情報を業界全体に広く伝える方法について、試行錯誤しながら進めてまいりますので、こういう情報がほしいなど、ご要望がありましたら、是非お願いいたします。広報委員の方々をはじめ、皆様よりお知恵をいただきながら、本誌面をわかりやく充実したものにしていきたいと考えております。引き続きのご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

(Jミルク国際委員会 事務局 齋藤真人)

令和4年2月28日発行

発 行 J ミ ル ク 国 際 委 員 会

(J-milk International Commitee)

東京都千代田区神田駿河台 2-1-20
お茶ノ水ユニオンビル 5F 一般社団法人 J ミルク
TEL : 03-5577-7495 (国際グループ共通)
FAX : 03-5577-3236

J ミルク 国際委員会

J-milk International Committee

東京都千代田区神田駿河台 2-1-20

お茶ノ水ユニオンビル 5F 一般社団法人 J ミルク

TEL : 03-5577-7495 (国際グループ共通) FAX : 03-5577-3236